

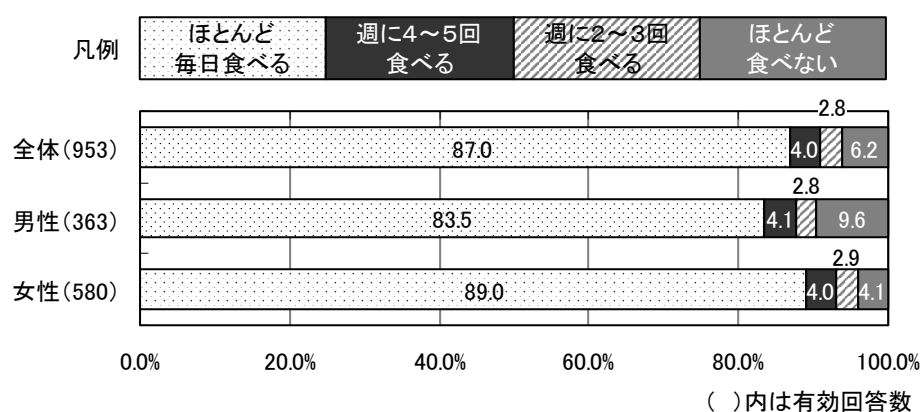
## 第2章 調査結果

### 1 食生活・栄養のバランス

#### (1) 朝食の摂取状況

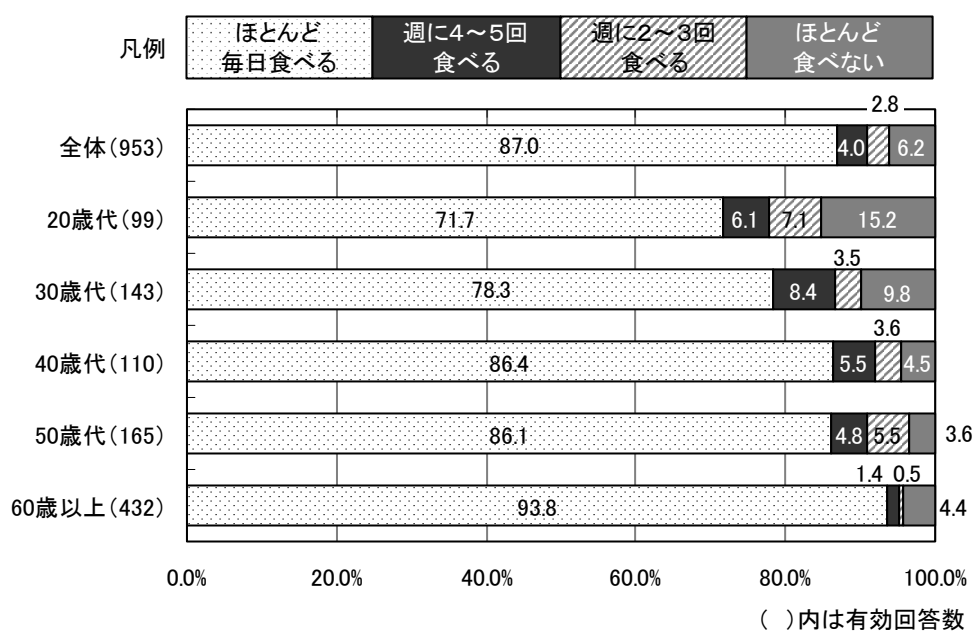
一般成人の朝食の摂取状況を性別で見ると、女性では「ほとんど毎日食べる」は89.0%となっており、男性より5.5ポイント高くなっています。また、男性では「ほとんど食べない」が9.6%となっています。

図1-(1)-1 朝食の摂取状況（一般成人 性別）



一般成人の年代別で見ると、「ほとんど食べない」の割合は、20歳代で15.2%、30歳代で9.8%となっており、年代が下がるにつれて、割合が高くなる傾向にあります。また、20歳代では「ほとんど毎日食べる」は71.7%となっています。

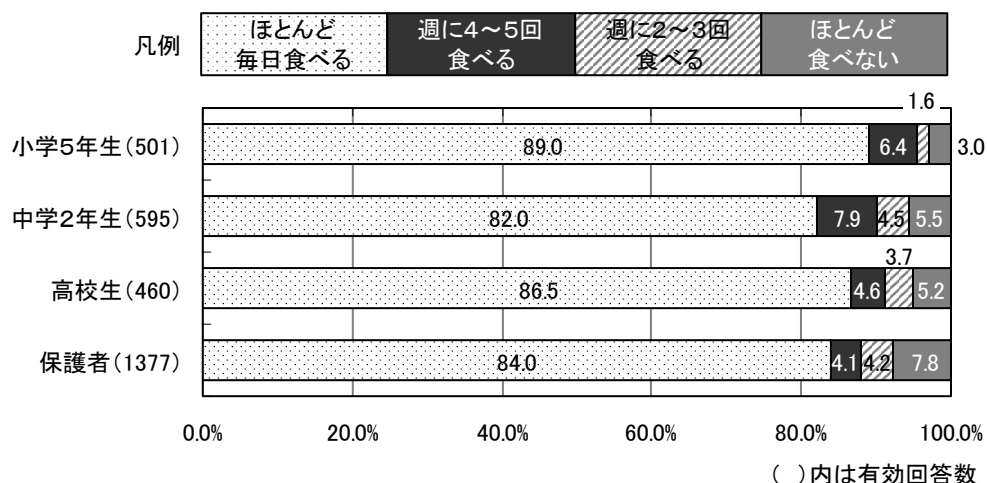
図1-(1)-2 朝食の摂取状況（一般成人 年代別）



児童生徒の学年別で見ると、「ほとんど食べない」の割合は小学5年生で3.0%、中学2年生が5.5%、高校生が5.2%となっています。

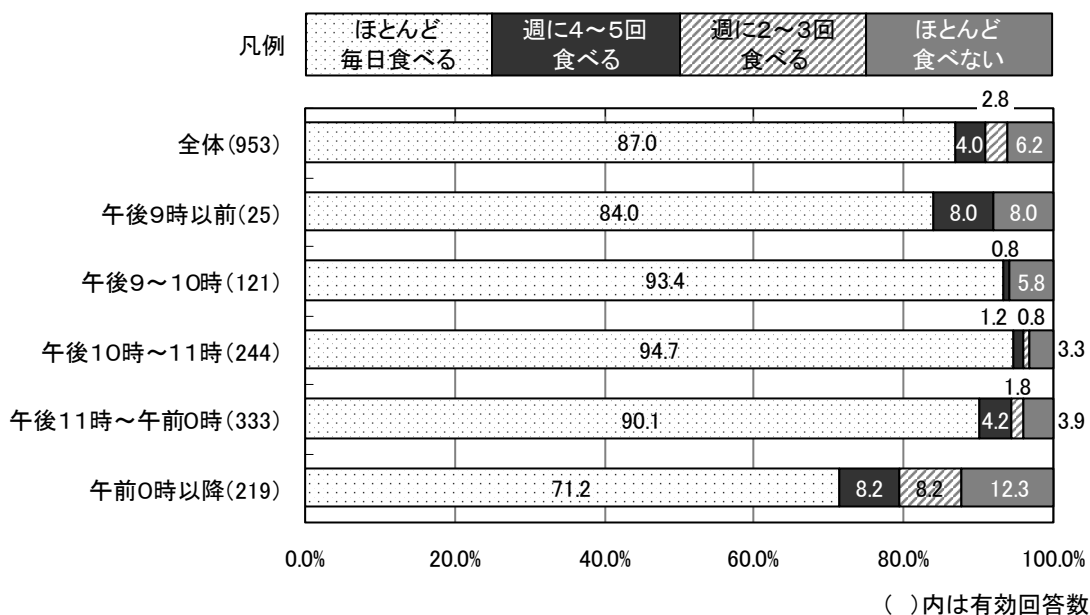
保護者では「ほとんど食べない」の割合が7.8%となっており、一般成人に比べ高くなっています。

図1-(1)-3 朝食の摂取状況（児童生徒 学年別、保護者）



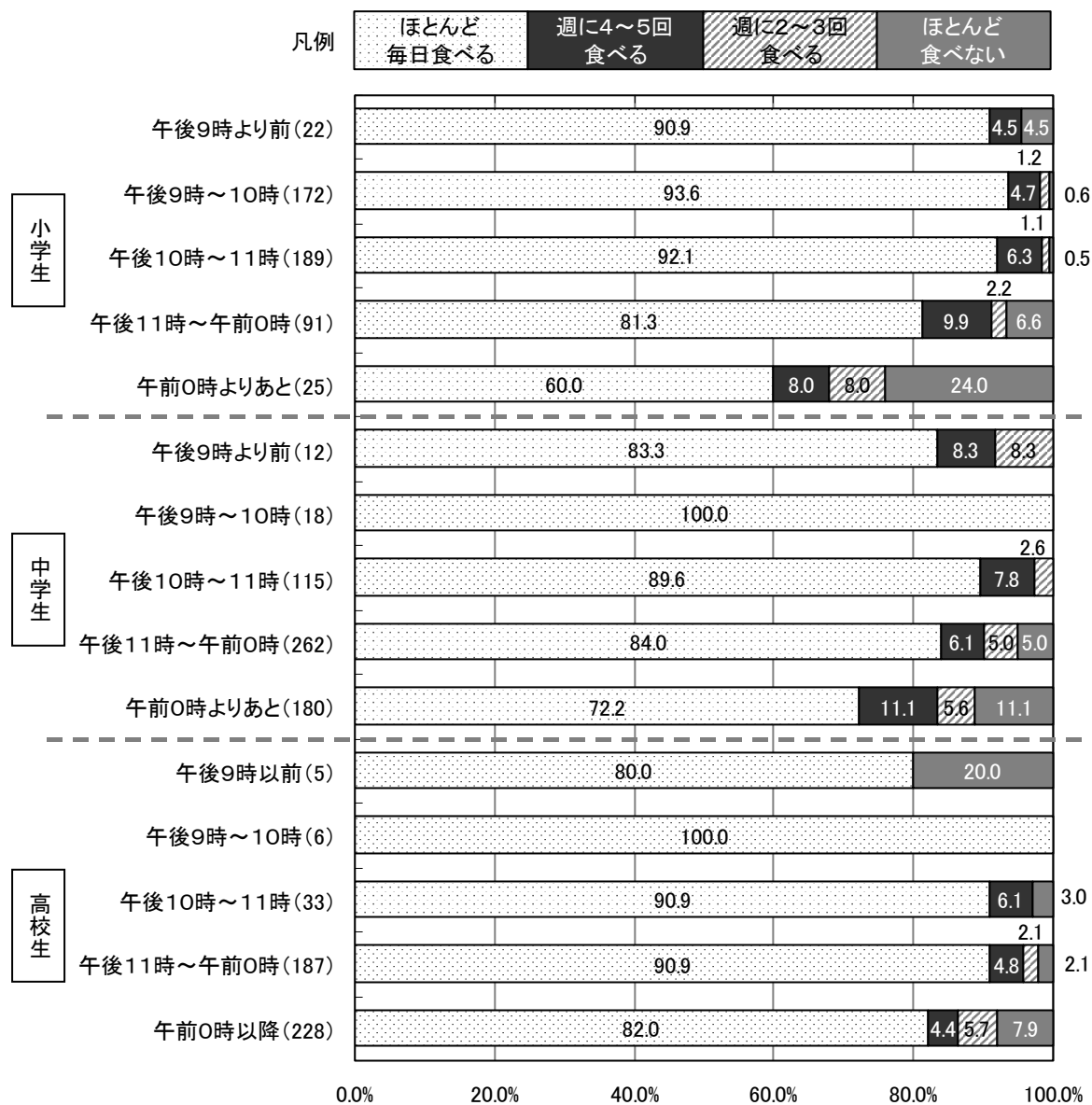
一般成人の就寝時間と朝食の摂取状況の関係をみると、就寝時間が午前0時以降になると「ほとんど食べない」の割合が増加し12.3%となっており、「ほとんど毎日食べる」の割合は71.2%となっています。

図1-(1)-4 朝食の摂取状況（一般成人 就寝時間別）



児童生徒の就寝時間と朝食の摂取状況の関係をみると、どの学年においても就寝時間が遅くなるほど「ほとんど食べない」の割合が高くなっており、一般成人と同じ傾向になっています。

図 1-(1)-5 朝食の摂取状況（児童生徒 就寝時間別）

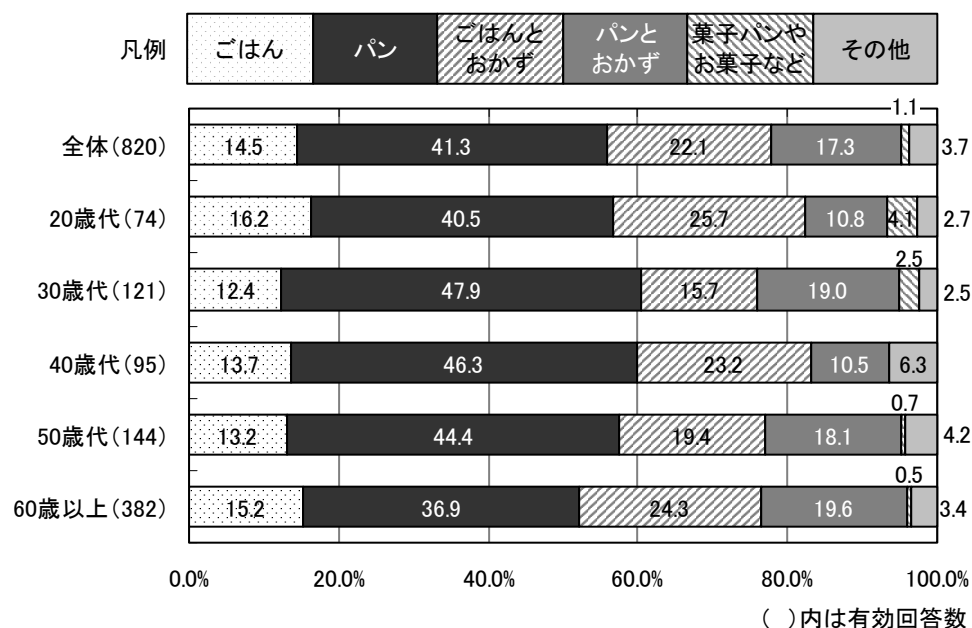


( )内は有効回答数

## (2) 朝食の内容

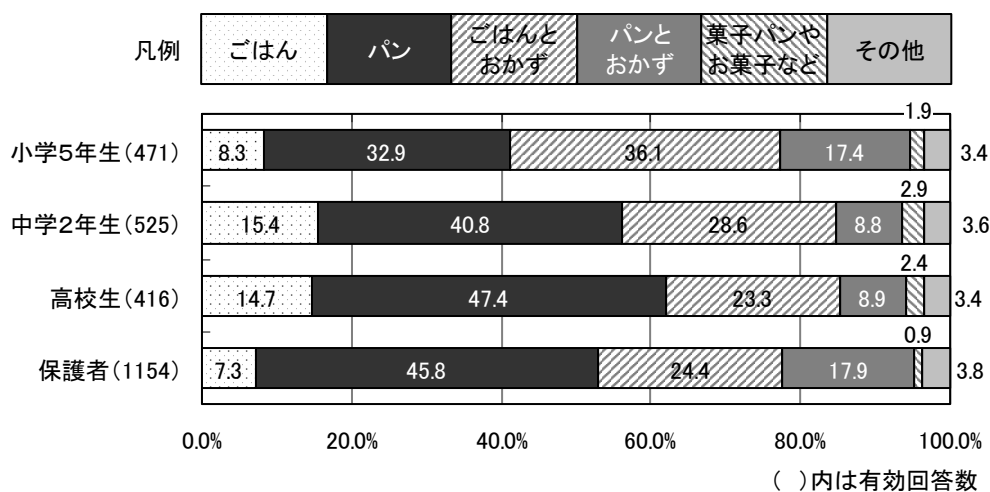
一般成人の朝食の内容を年代別で見ると、「ごはん」と「ごはんとおかず」を合わせた割合は20歳代が最も高く41.9%になっています。また、「ごはん」と「パン」を合わせた割合がどの年代においても半数を超えています。

図1-(2)-1 朝食の内容（一般成人 年代別）



児童生徒の学年別で見ると、小学5年生では「ごはんとおかず」の割合が36.1%となっており、他の年代に比べ高くなっています。「パン」の割合は学年が上がるにつれて高くなっており、高校生では47.4%となっています。

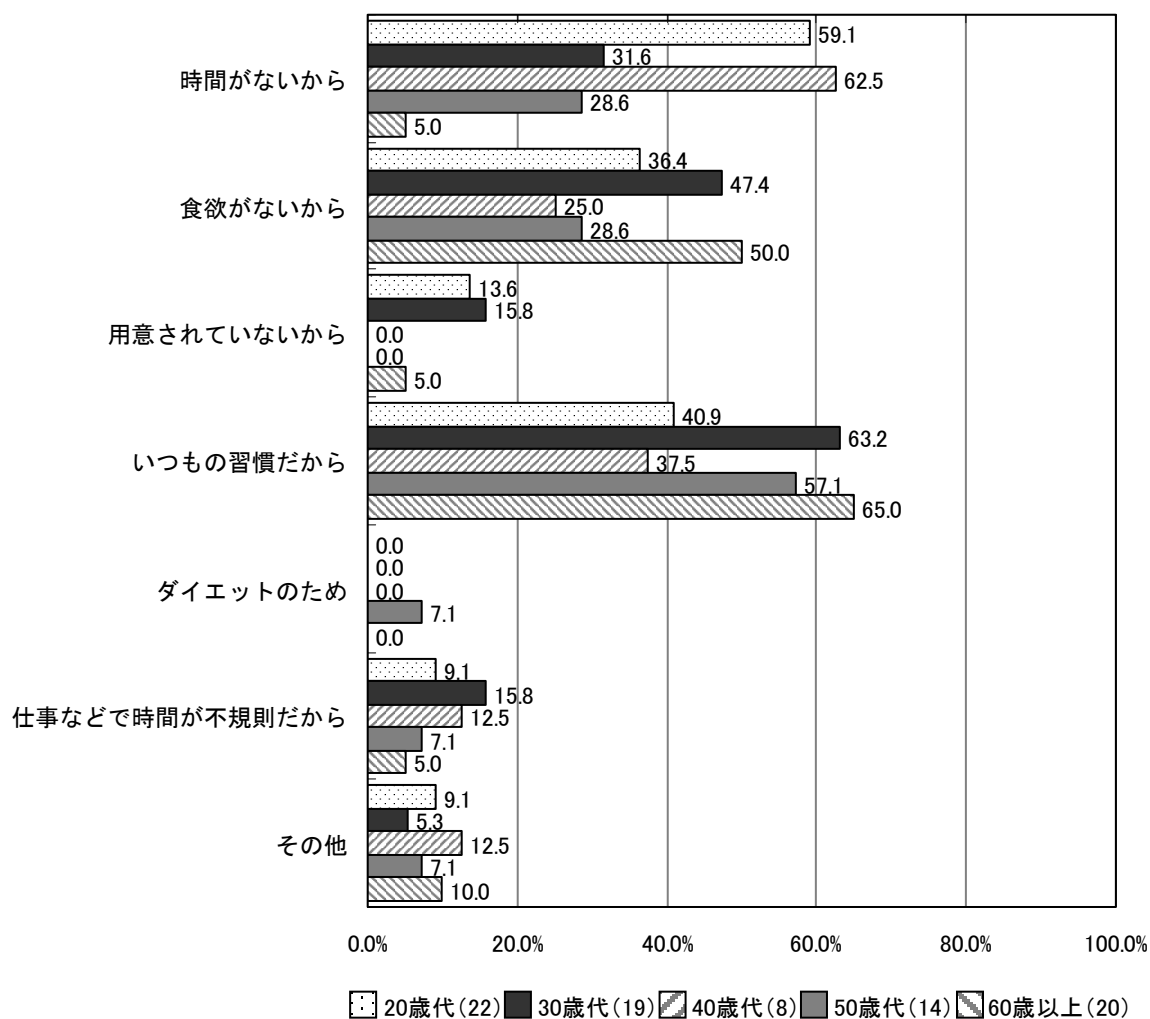
図1-(2)-2 朝食の内容（児童生徒 学年別、保護者）



## (3) 朝食欠食の理由（複数回答）

一般成人の朝食の欠食理由を年代別で見ると、20歳代、40歳代では「時間がないから」が、30歳代、50歳代、60歳以上では、「いつもの習慣だから」が最も高く約6割となっています。

図 1-(3)-1 朝食欠食の理由（一般成人 年代別）

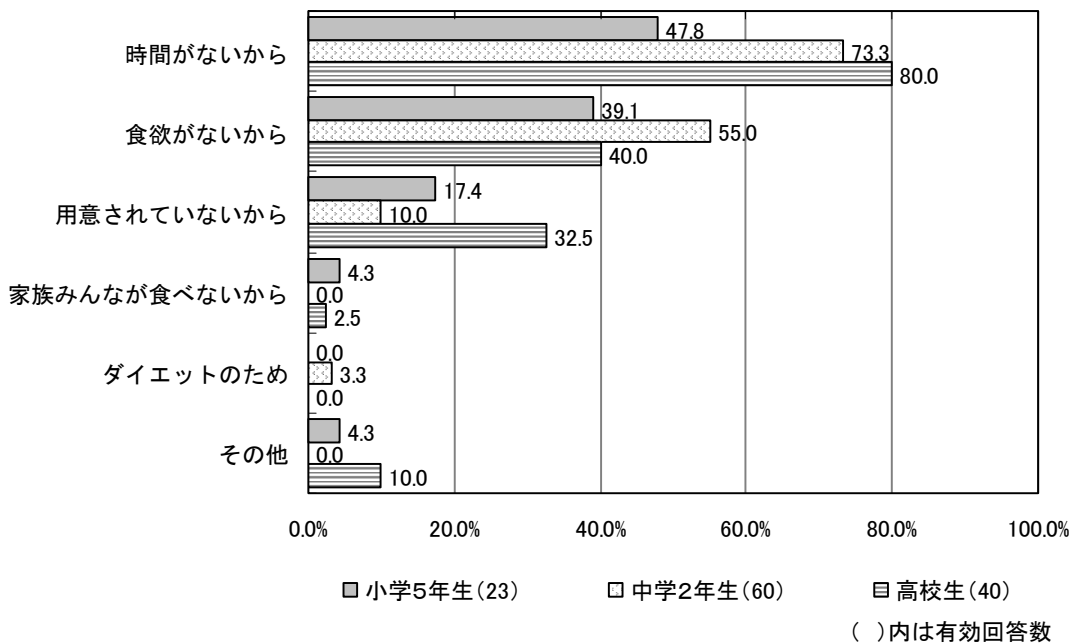


( )内は有効回答数

児童生徒の学年別で見ると、中学2年生、高校生で「時間がないから」の割合が73.3%、80.0%になっています。次いで、中学2年生では「食欲がないから」が55.0%となっています。高校生では「用意されていないから」が32.5%と、他の学年に比べ高くなっています。

また、中学2年生では「ダイエットのため」が3.3%となっています。

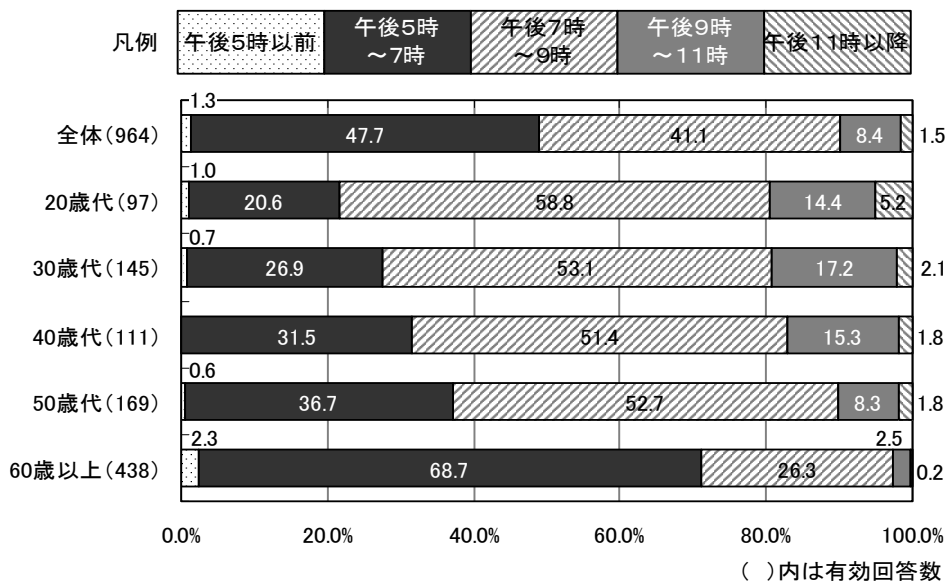
図1-(3)-2 朝食欠食の理由（児童生徒 学年別）



#### (4) 夕食の時間

一般成人の夕食の時間を年代別で見ると、年代が下がるにつれ、夕食の時間が遅くなる傾向があり、20歳代、30歳代、40歳代では約15%が「午後9時～11時」となっています。

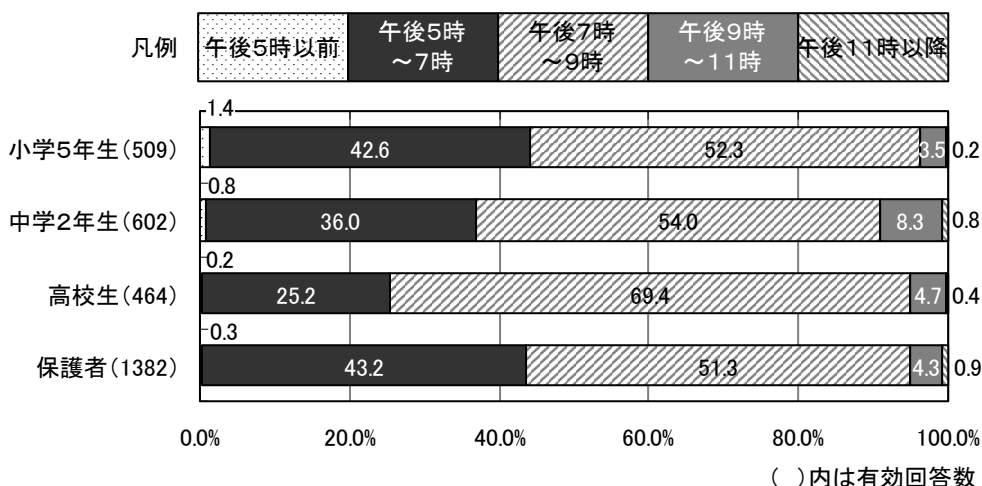
図1-(4)-1 夕食の時間（一般成人 年代別）



児童生徒の学年別で見ると、学年が上がるにつれ、夕食時間が遅くなる傾向にあり、「午後5時以前」と「午後5時～7時」を合わせた割合は小学5年生では44.0%であるのに対して、高校生では25.4%となっています。

また、保護者では「午後5時以前」と「午後5時～7時」を合わせた割合は43.5%となっています。

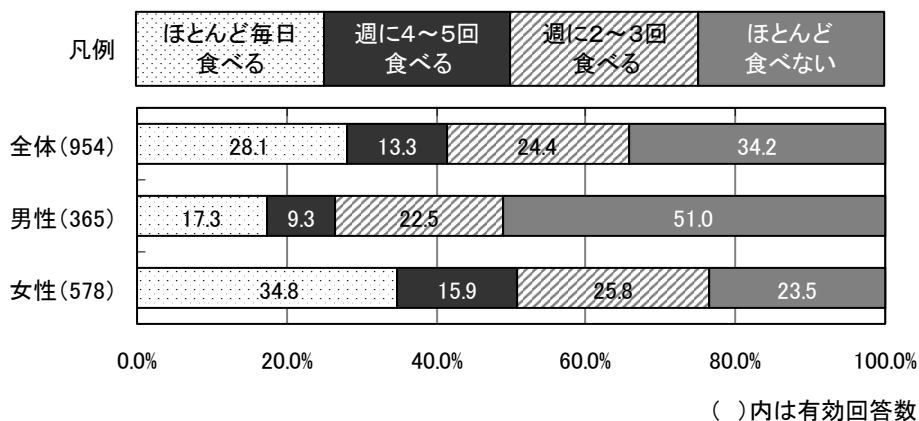
図1-(4)-2 夕食の時間（児童生徒 学年別、保護者）



### (5) 間食等の摂取状況

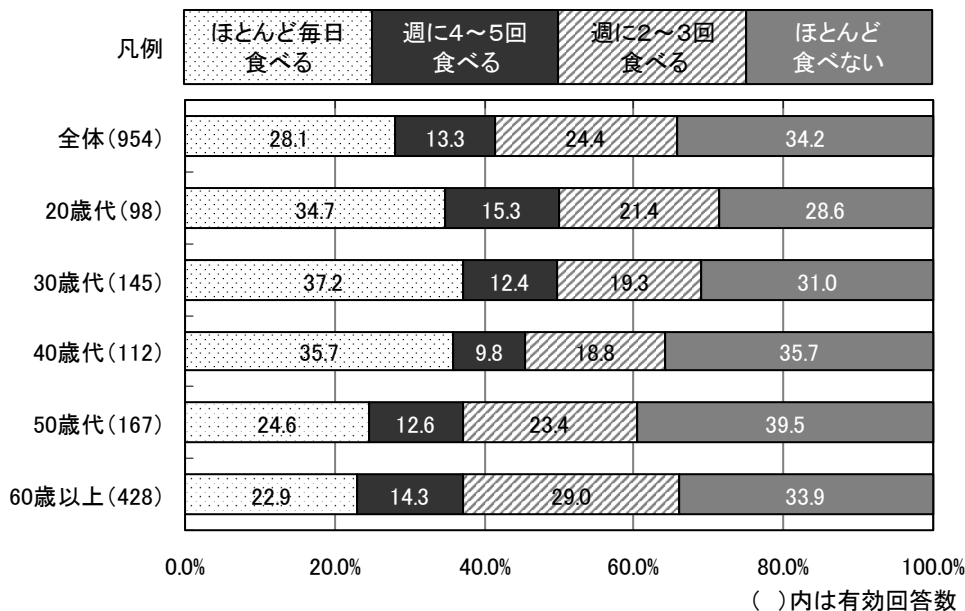
一般成人の間食等の摂取状況を性別で見ると、女性では、「ほとんど毎日食べる」、「週に4～5回食べる」、「週に2～3回食べる」を合わせた割合が76.5%となっており、男性に比べ27.4ポイント高くなっています。

図1-(5)-1 間食等の摂食状況（一般成人 性別）



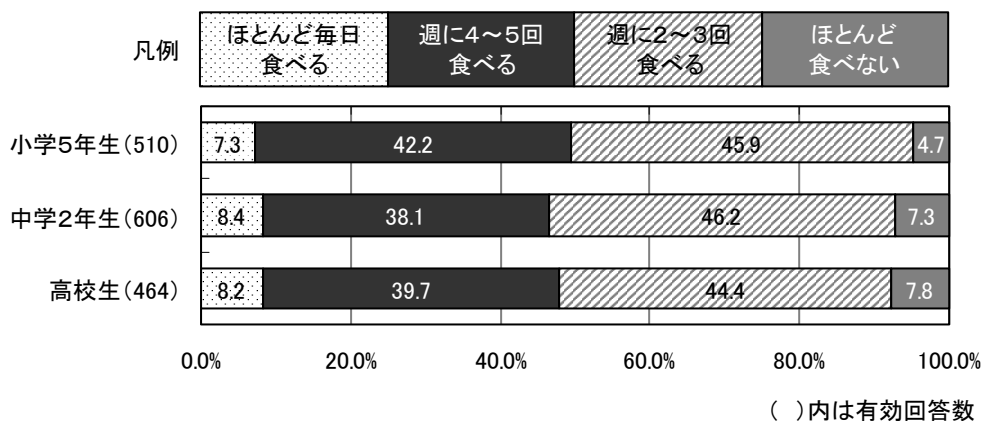
一般成人の年代別で見ると、年代が下がるにつれ、間食している割合が高くなっており、20歳代では「ほとんど毎日食べる」、「週に4～5回食べる」、「週に2～3回食べる」を合わせた割合が71.4%となっています。

図1-(5)-2 間食等の摂食状況（一般成人 年代別）



児童生徒の学年別で見ると、「ほとんど毎日食べる」、「週に4～5回食べる」、「週に2～3回食べる」を合わせた割合は、どの学年においても9割以上となっています。

図1-(5)-3 間食等の摂取状況（小中学生・高校生 学年別）

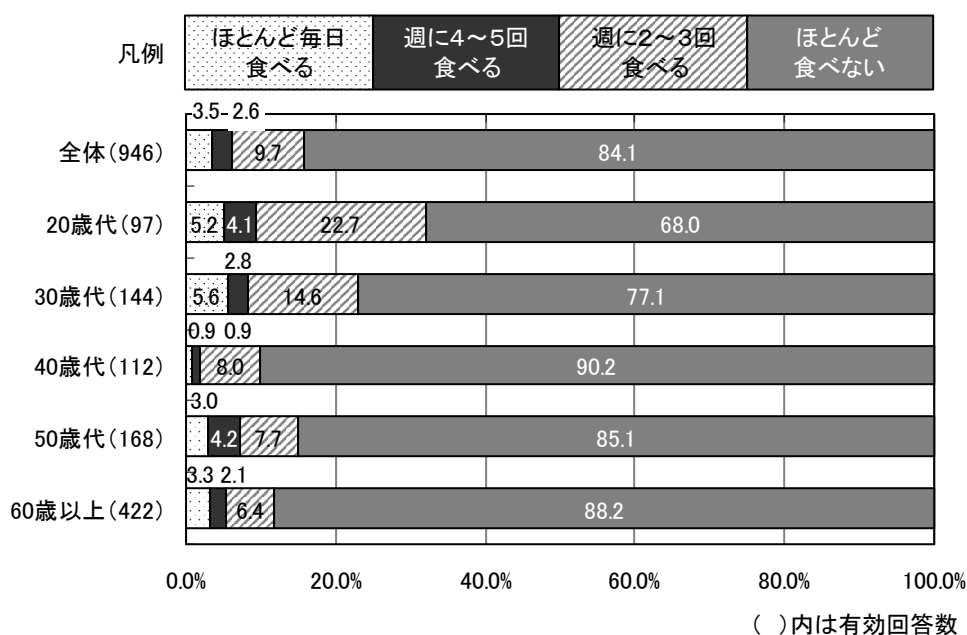




## (6) 夜食の摂取状況

一般成人の夜食の摂取状況を年代別で見ると、「ほとんど毎日食べる」、「週に4～5回食べる」、「週に2～3回食べる」を合わせた割合は20歳代、30歳代で高くなっており、20歳代では32.0%となっています。

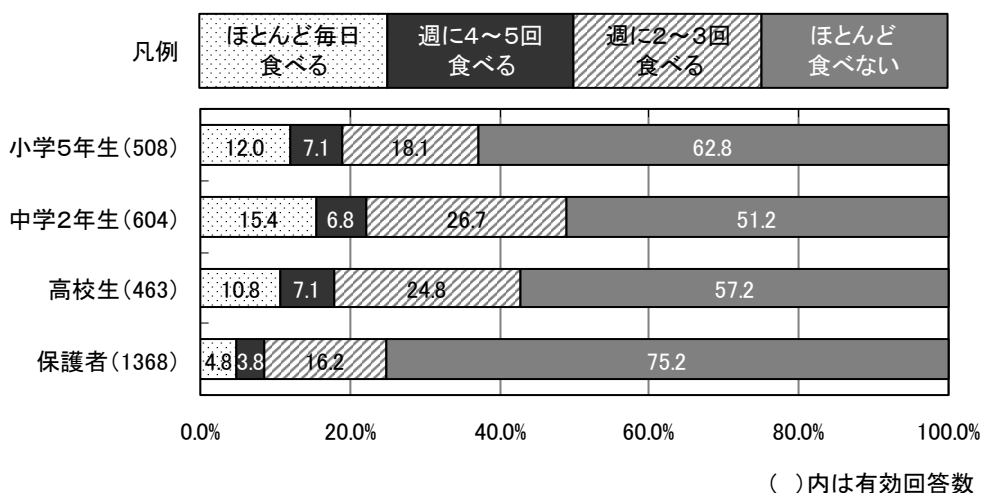
図1-(6)-1 夜食の摂取状況（一般成人 年代別）



児童生徒の学年別で見ると、「ほとんど毎日食べる」、「週に4～5回食べる」、「週に2～3回食べる」を合わせた割合は、小学5年生では37.2%となっていますが、中学2年生、高校生では4割以上となっています。

保護者では、「ほとんど毎日食べる」、「週に4～5回食べる」、「週に2～3回食べる」を合わせた割合は24.8%となっています。

図1-(6)-2 夜食の摂取状況（児童生徒 学年別、保護者）

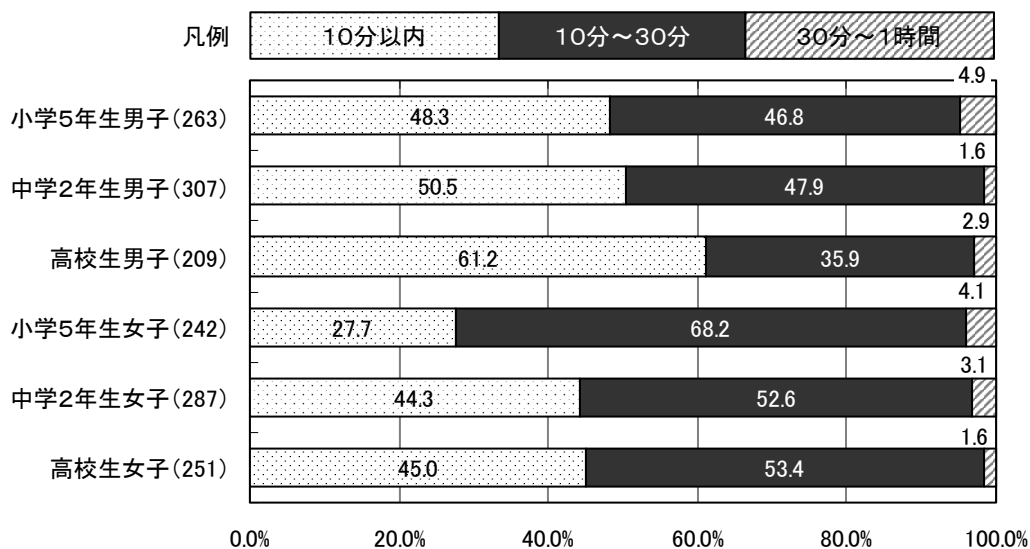


### (7) 食事にかかる時間

#### ①朝食

児童生徒の朝食にかかる時間を性別、学年別で見ると、男女ともに、学年が上がるにつれ、朝食の時間が「10分以内」の割合が高くなっており、高校生の男子では61.2%になっています。

図1-(7)-1 朝食にかかる時間（児童生徒 性別学年別）

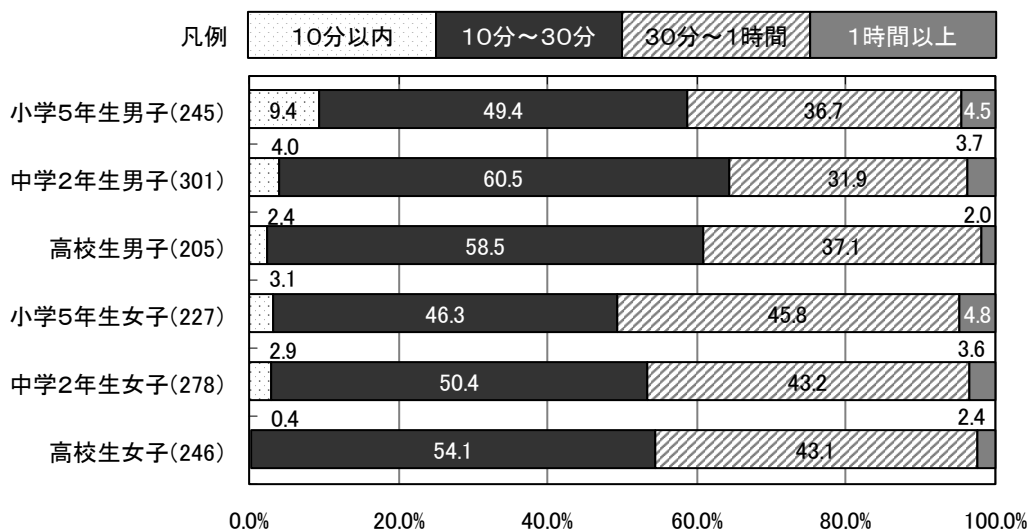


( )内は有効回答数

#### ②夕食

児童生徒の夕食にかかる時間を性別、学年別で見ると、女子では夕食の時間が「30分~1時間」の割合が4割以上となっており、男子に比べ高くなっています。

図1-(7)-2 夕食にかかる時間（児童生徒 性別学年別）

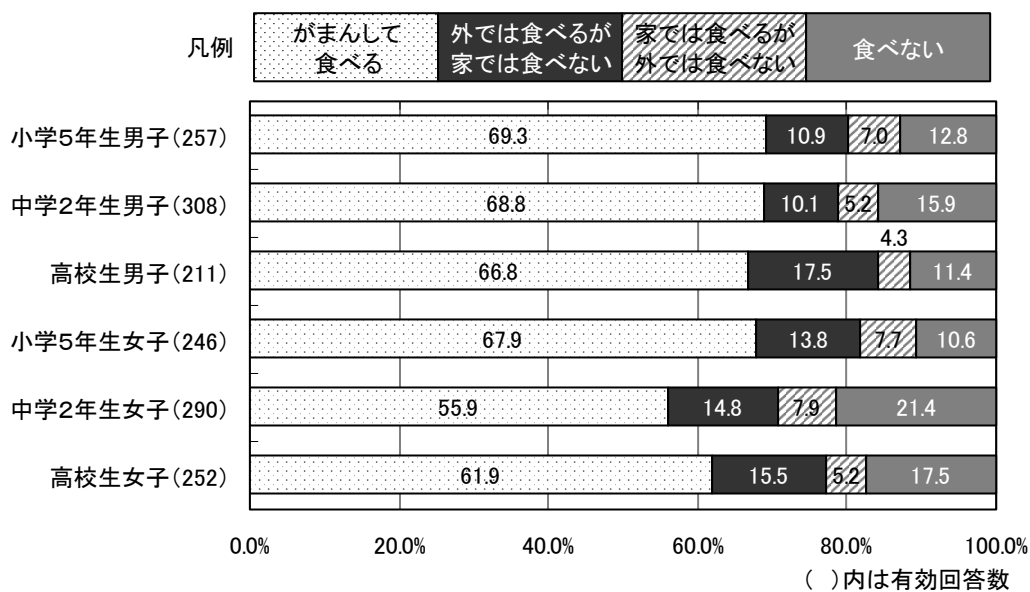


( )内は有効回答数

## (8) 好き嫌いの状況

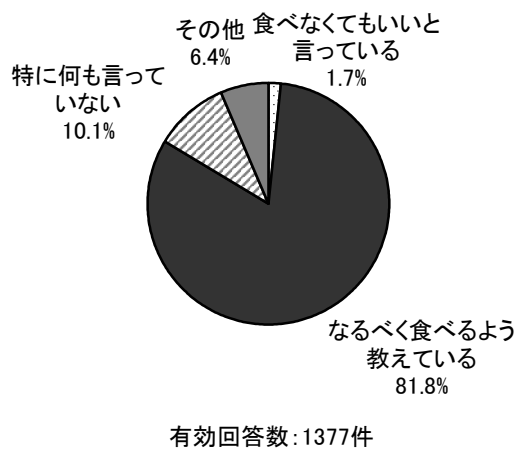
児童生徒の好き嫌いの状況を性別、学年別で見ると、「がまんして食べる」の割合は、中学2年生女子で55.9%、高校生女子で61.9%となっており、他と比べ低くなっています。

図 1-(8)-1 好き嫌いの状況 (児童生徒 性別学年別)



保護者の子どもの好き嫌いへの対応を見ると、「なるべく食べるよう教えている」が81.8%となっています。

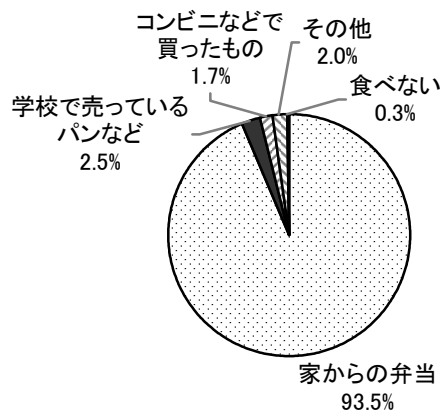
図 1-(8)-2 子どもの好き嫌いへの対応 (保護者)



### (9) 学校での昼食の状況

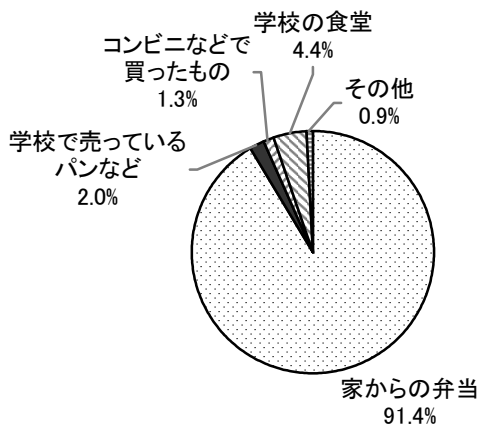
生徒の学校での昼食の状況を学年別で見ると、「家からの弁当」の割合は、中学2年生が93.5%、高校生が91.4%となっています。

図 1-(9)-1 学校での昼食の状況 (中学生)



有効回答数: 589件

図 1-(9)-2 学校での昼食の状況 (高校生)

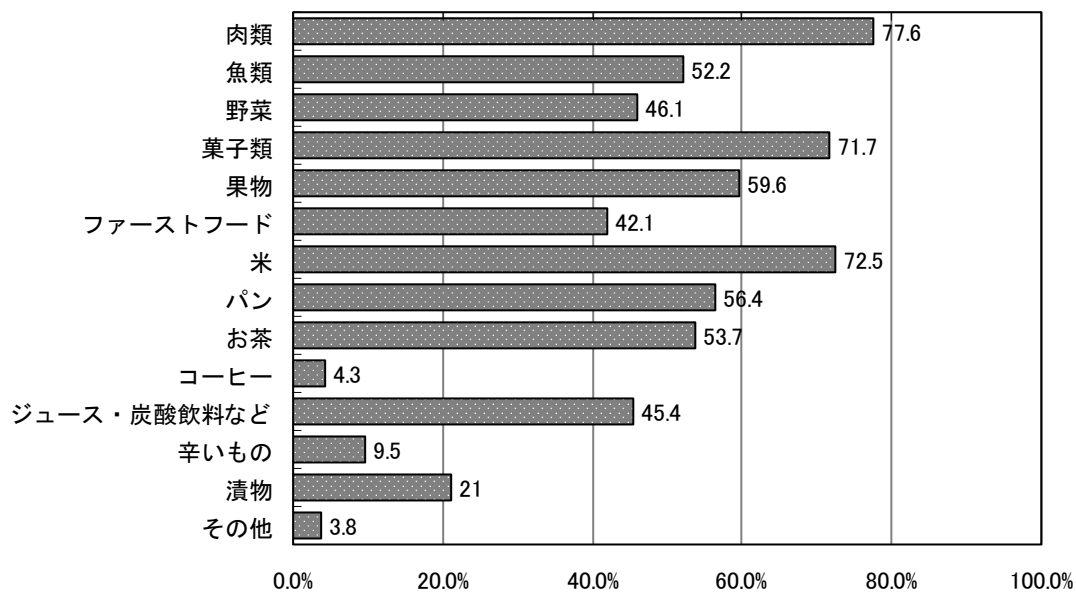


有効回答数: 451件

### (10) 好きな飲食物 (複数回答)

就学前児童・小中学生が好んで飲食するものを見ると、「肉類」が77.6%と最も高く、「菓子類」は71.7%となっています。また、「ジュース・炭酸飲料など」が45.4%、「辛いもの」が9.5%になっています。

図 1-(10)-1 就学前児童・小中学生の好きな飲食物 (保護者)



■ 保護者(1386)

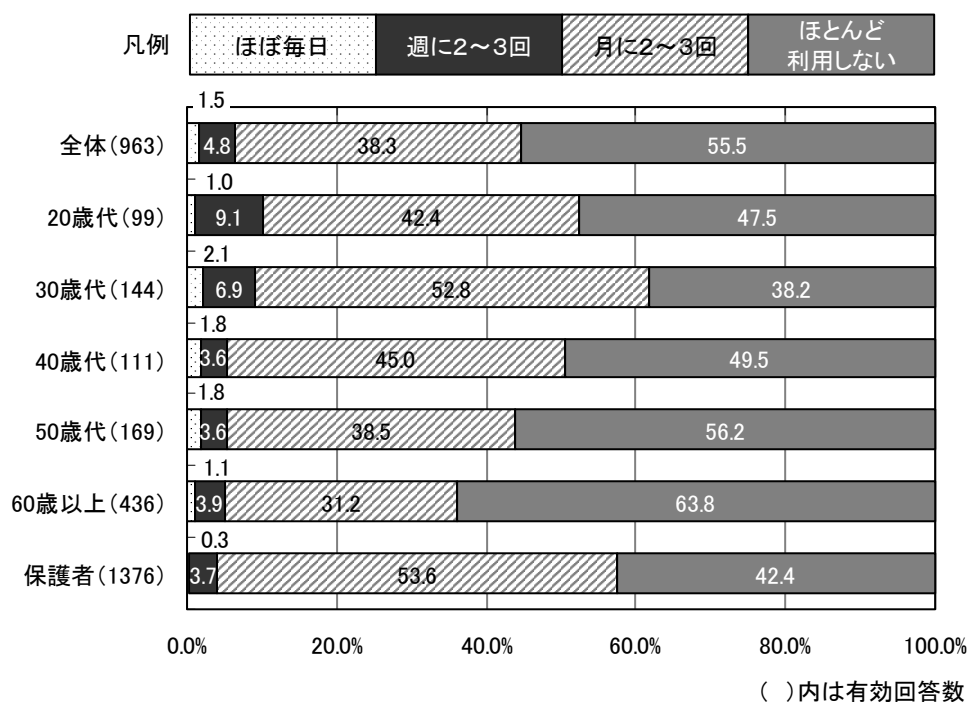
( )内は有効回答数

## (11) 外食の利用状況

一般成人の外食の利用状況を年代別で見ると、30歳代では「ほぼ毎日」、「週に2～3回」、「月に2～3回」を合わせた割合が61.8%となっており、他の年代に比べ高くなっています。一方、40歳以上では年代が上がるにつれて、「ほとんど利用しない」の割合が高くなっており、60歳以上では63.8%となっています。

保護者では、「ほぼ毎日」、「週に2～3回」、「月に2～3回」を合わせた割合は57.6%となっています。

図 1-(11)-1 外食の利用状況（一般成人年代別 保護者）

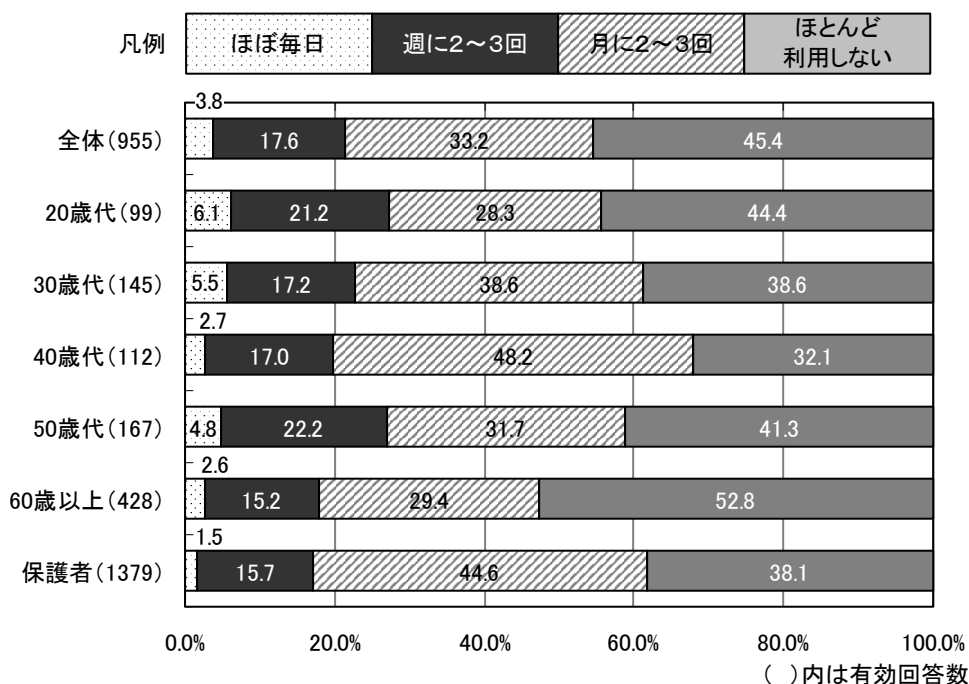


(12) 中食の利用状況

一般成人の中食の利用状況を年代別で見ると、「ほぼ毎日」、「週に2～3回」、「月に2～3回」を合わせた割合は、30歳代で61.3%、40歳代で67.9%となっており、他の年代に比べ高くなっています。

保護者では、「ほぼ毎日」、「週に2～3回」、「月に2～3回」を合わせた割合が61.8%となっています。

図1-(12)-1 中食の利用状況（一般成人年代別、保護者）

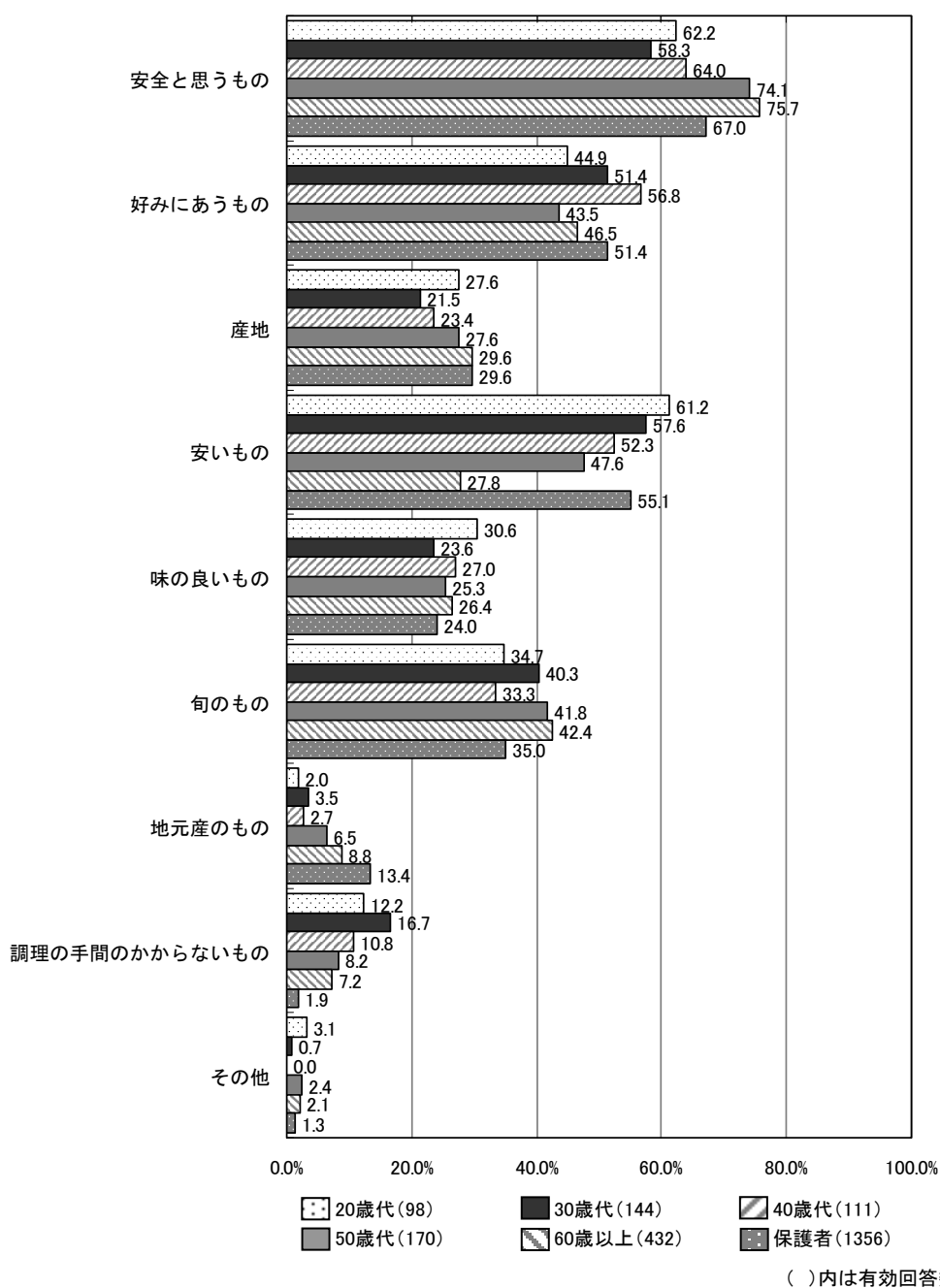


## (13) 食材の選択基準（複数回答）

一般成人の食材の選択基準を年代別で見ると、「安全と思うもの」は、50歳代で74.1%、60歳以上で75.7%となっており、他の年代に比べ高くなっています。また、年代が下がるにつれ「安いもの」の割合が高くなっており、20歳代では61.2%となっています。

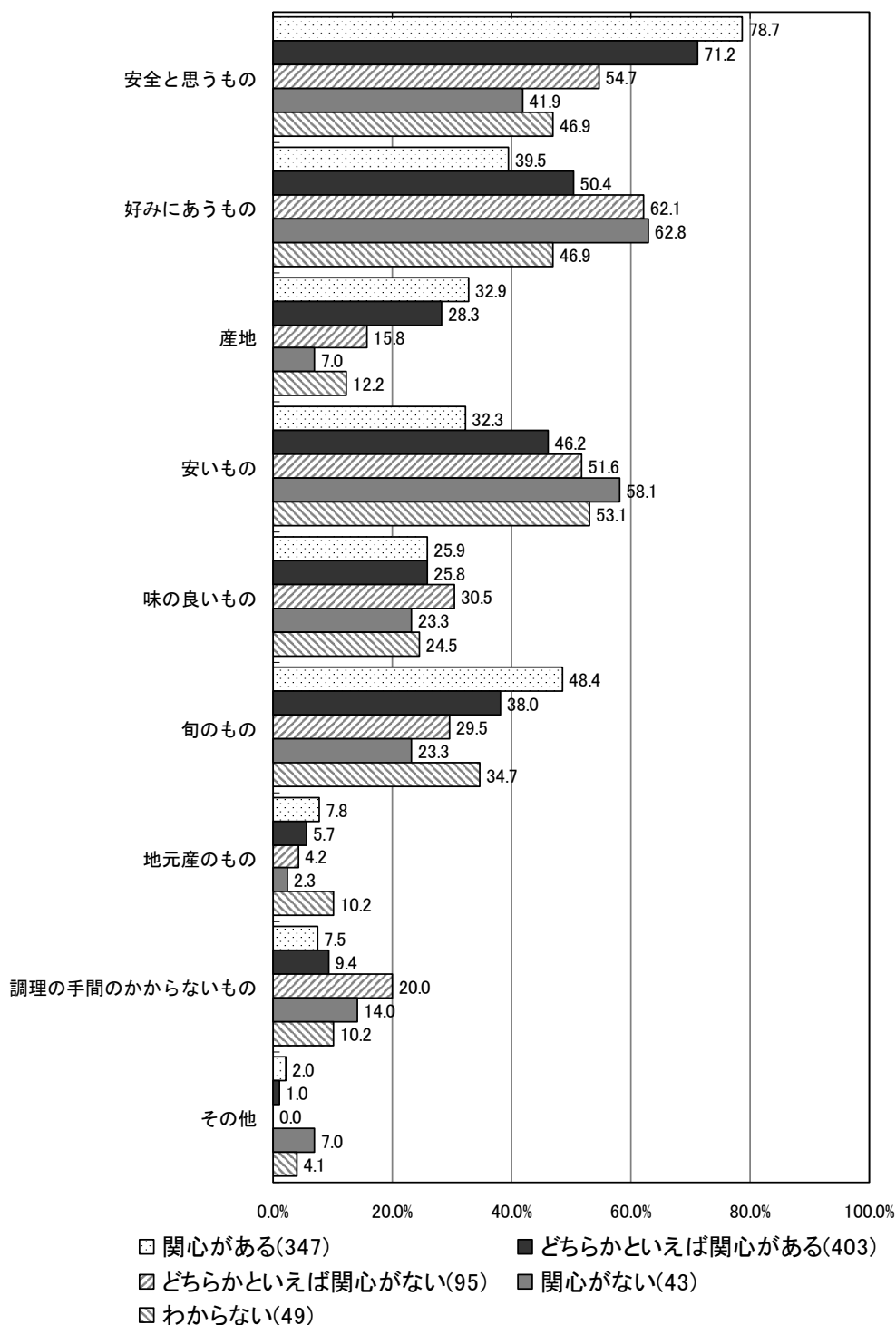
保護者では、「安全と思うもの」が67.0%になっており、「安いもの」が55.1%、「地元産のもの」が13.4%となっています。

図 1-(13)-1 食材の選択基準（一般成人年代別、保護者）



一般成人の食育に関する関心度別で見ると、「関心がある」と答えた人では「安全と思うもの」が78.7%となっており、関心が高いほど「安全と思うもの」の割合が高くなっています。また、関心が低くなるほど「好みにあうもの」、「安いもの」の割合が高くなる傾向があります。

図1-(13)-2 食材の選択基準（一般成人 食育の関心度別）



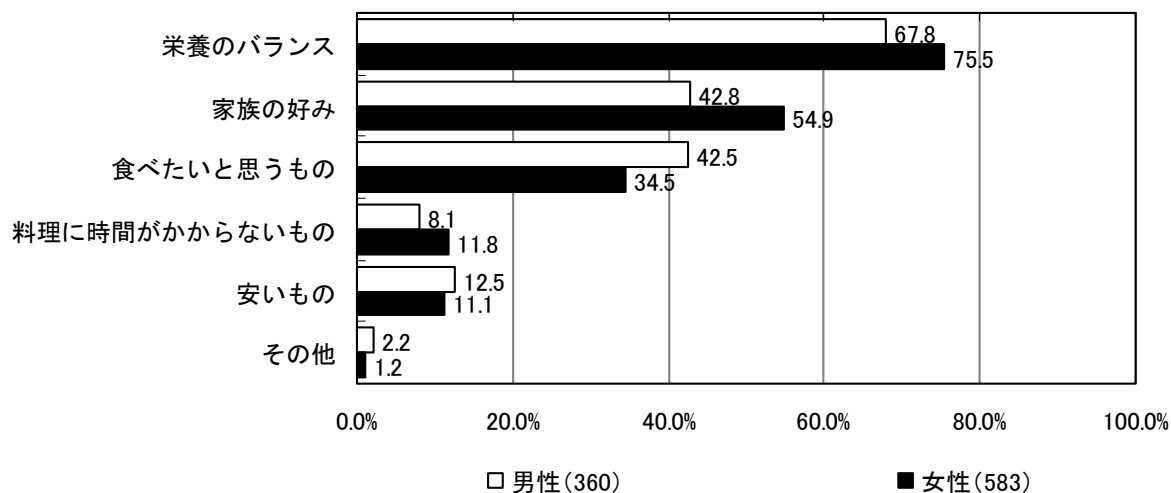
( )内は有効回答数



## (14) 献立の選択基準（複数回答）

一般成人の献立の選択基準を性別で見ると、「栄養のバランス」が最も高くなっており、男性 67.8%、女性 75.5%となっています。男性では「食べたいと思うもの」が 42.5%となっており、女性に比べ 8.0 ポイント高くなっています。また、女性では「家族の好み」が 54.9%で、男性に比べ 12.1 ポイント高くなっています。

図 1-(14)-1 献立の選択基準（一般成人性別）

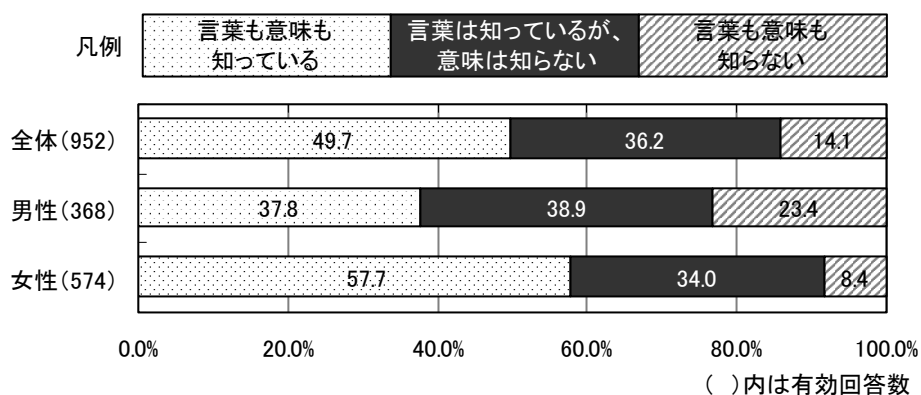


( )内は有効回答数

## (15) 食育の周知度

一般成人の食育の周知度を性別で見ると、女性では「言葉も意味も知っている」の割合が 57.7%となっており、男性に比べ 19.9 ポイント高くなっています。

図 1-(15)-1 食育の周知度（一般成人性別）

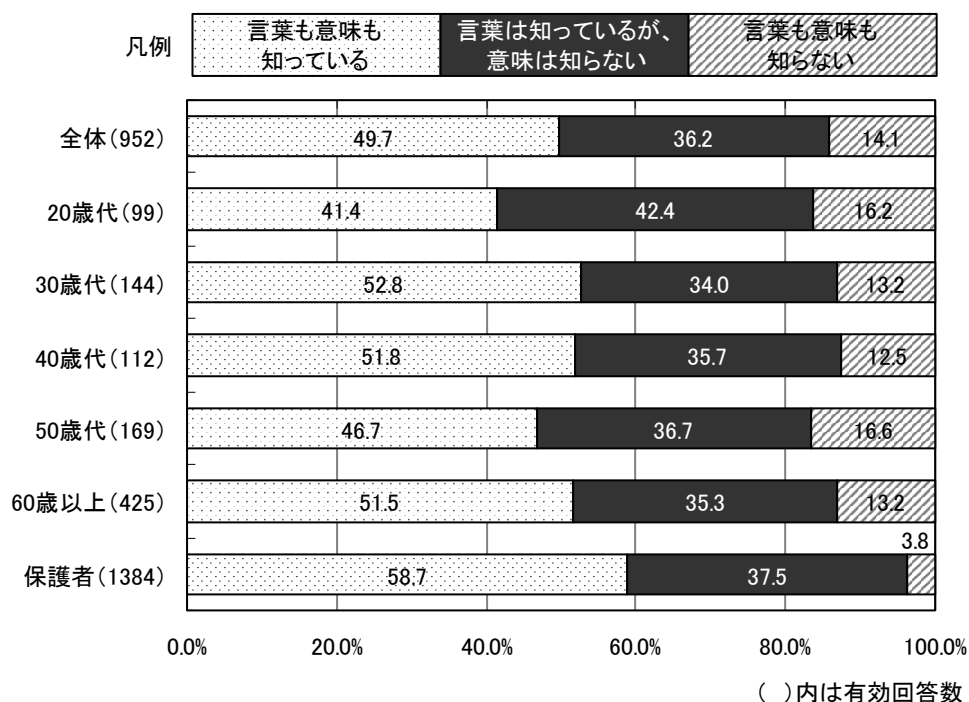


( )内は有効回答数

一般成人の年代別で見ると、どの年代においても「言葉も意味も知っている」が約半数を占めていますが、20歳代では41.4%で他の年代よりも低くなっています。

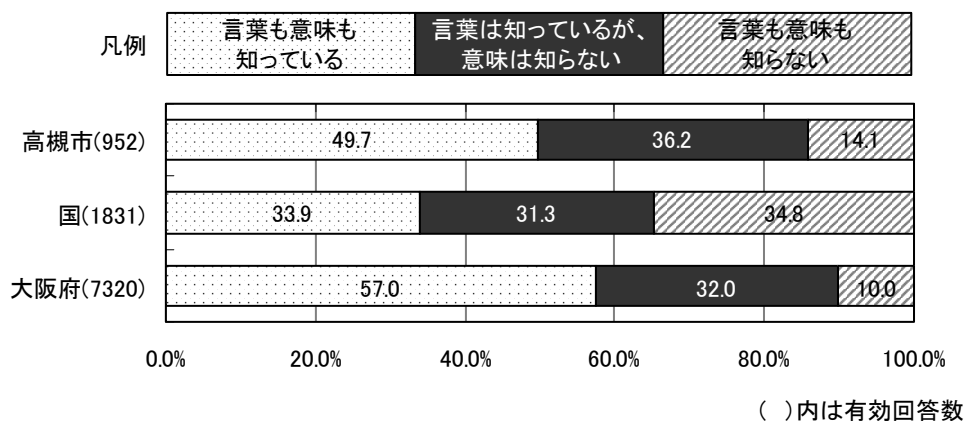
保護者では、「言葉も意味も知っている」の割合が58.7%となっており、他に比べ高くなっています。

図 1-(15)-2 食育の周知度（一般成人 年代別、保護者）



高槻市の結果を国、大阪府と比較すると、「言葉も意味も知っている」の割合が49.7%となっており、国に比べ15.8ポイント高くなっていますが、大阪府に比べ7.3ポイント低くなっています。

図 1-(15)-3 食育の周知度（一般成人）

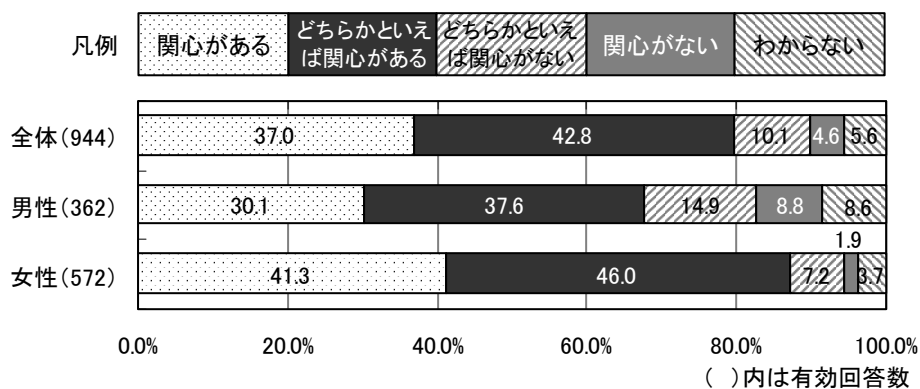


\*国「食育に関する意識調査」(内閣府)平成19年3月  
大阪府「食育に関するアンケート調査」平成18年1月～9月

## (16) 食育の関心度

一般成人の食育の関心度を性別で見ると、「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、女性では87.3%となっており、男性に比べ19.6ポイント高くなっています。

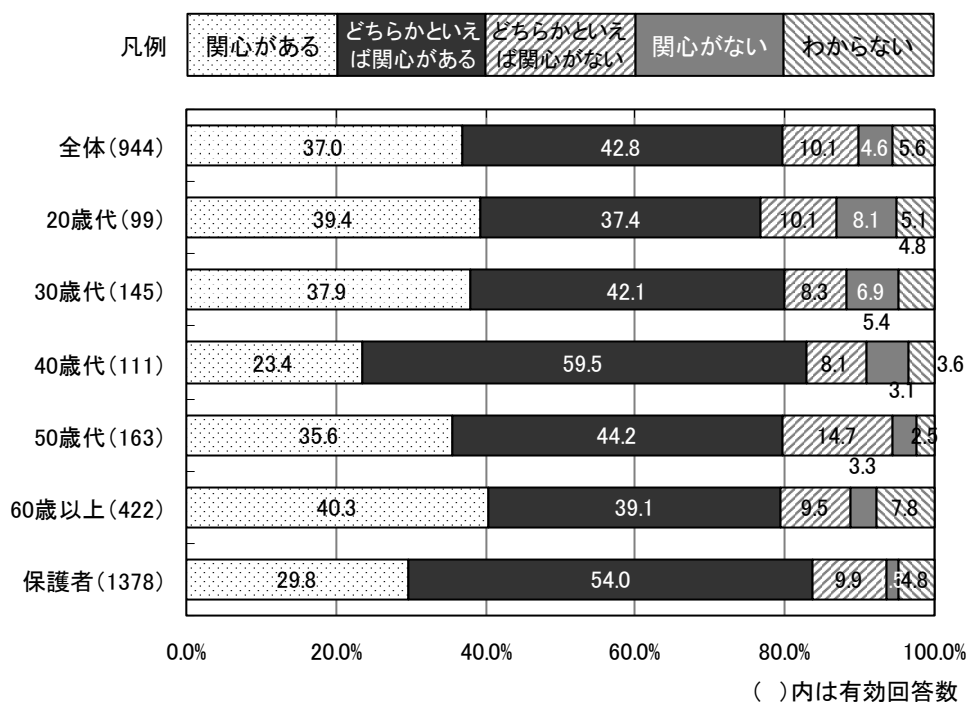
図1-(16)-1 食育の関心度（一般成人 性別）



一般成人の年代別で見ると、「関心がある」は40歳代で23.4%と最も低くなっていますが、「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は82.9%と最も高くなっています。

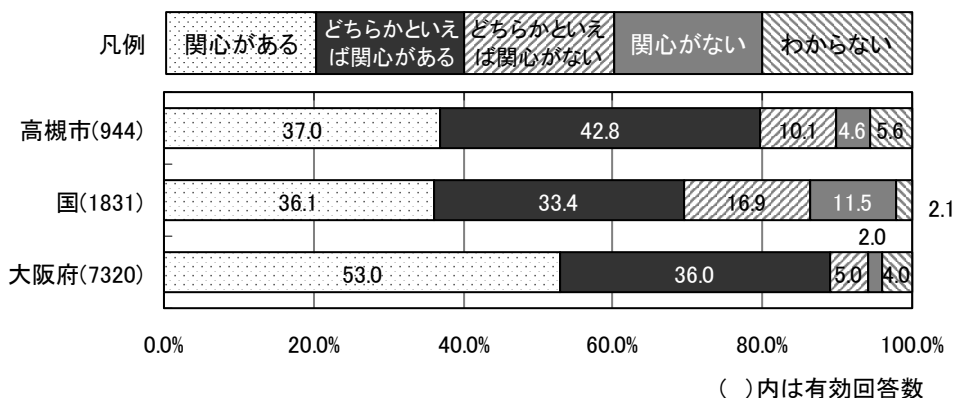
保護者では、「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は83.8%となっており、他に比べ高くなっています。

図1-(16)-2 食育の関心度（一般成人 年代別、保護者）



高槻市の結果を国、大阪府と比較すると、「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合が79.8%となっており、国に比べ10.3ポイント高くなっていますが、大阪府に比べ9.2ポイント低くなっています。

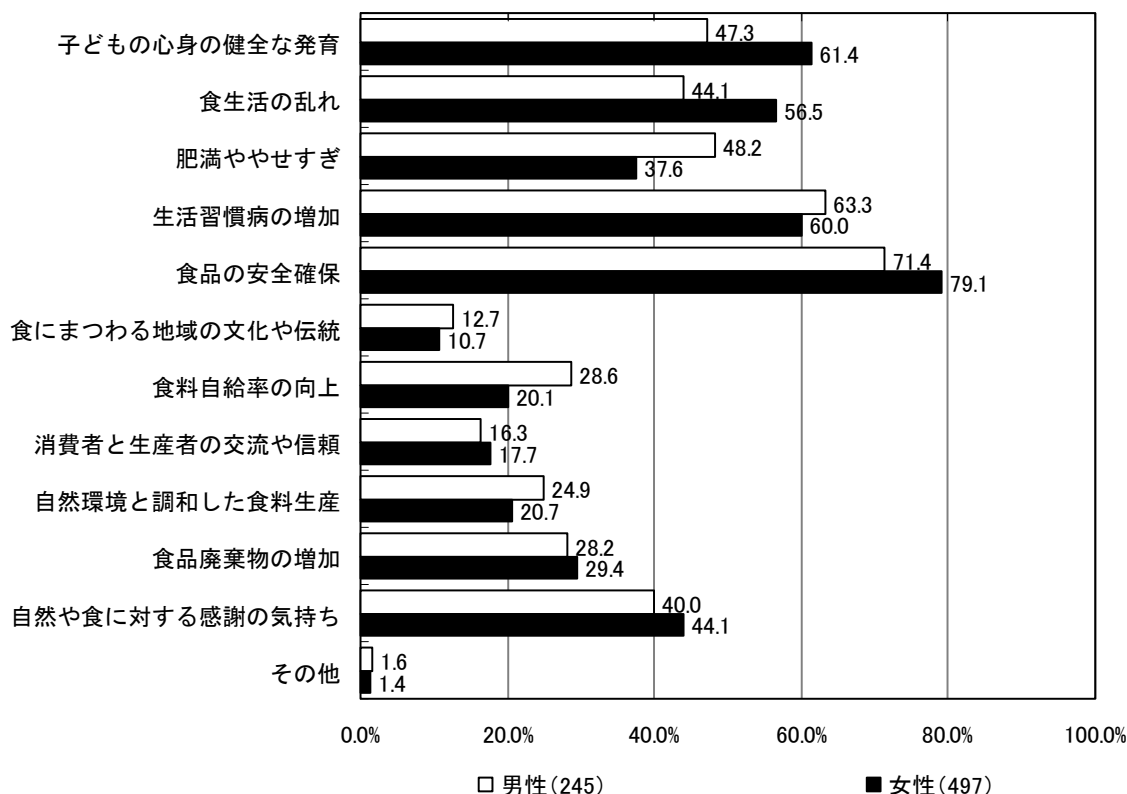
図1-(16)-3 食育の関心度（一般成人）



(17) 食育の関心項目（複数回答）

一般成人の食育の関心項目を性別で見ると、「食品の安全確保」が最も高く、男性71.4%、女性79.1%となっています。また、男性では、「生活習慣病の増加」が63.3%、「肥満ややせすぎ」が48.2%となっているのに対して、女性では、「子どもの心身の健全な発育」が61.4%、「食生活の乱れ」が56.5%となっています。

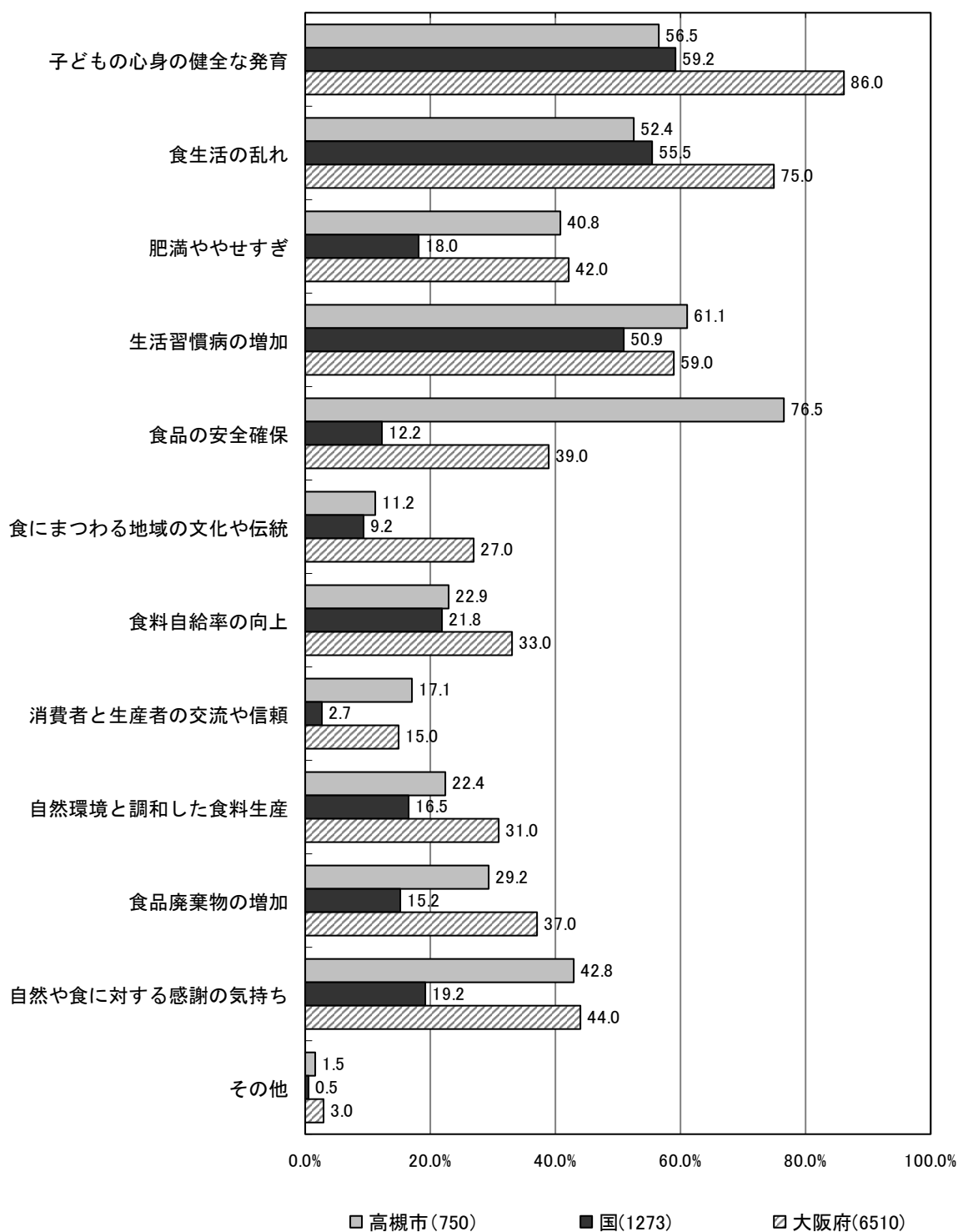
図1-(17)-1 食育の関心項目（一般成人 性別）



( )内は有効回答数

高槻市の結果を国、大阪府と比較すると、「食品の安全の確保」の割合が76.5%となっており、国の12.2%、大阪府の39.0%に比べて高くなっています。また、「生活習慣病の増加」も国や大阪府に比べて高くなっています。

図 1-(17)-2 食育の関心項目（一般成人）



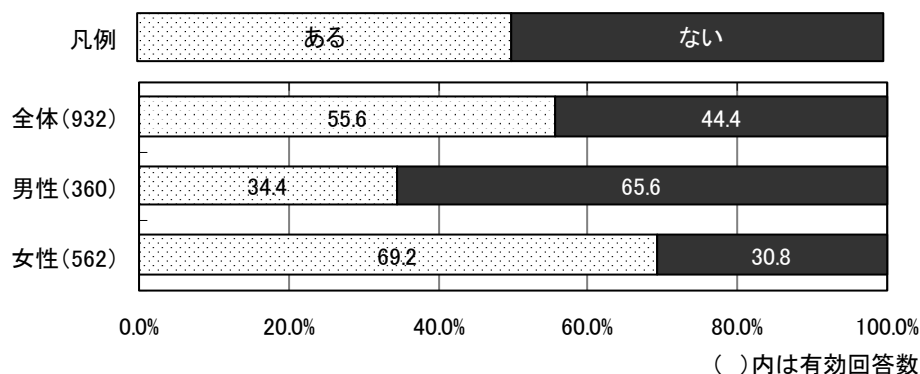
( )内は有効回答数

### (18) 食事バランスガイドの周知度

#### ① 「食事バランスガイド」イラストの周知度

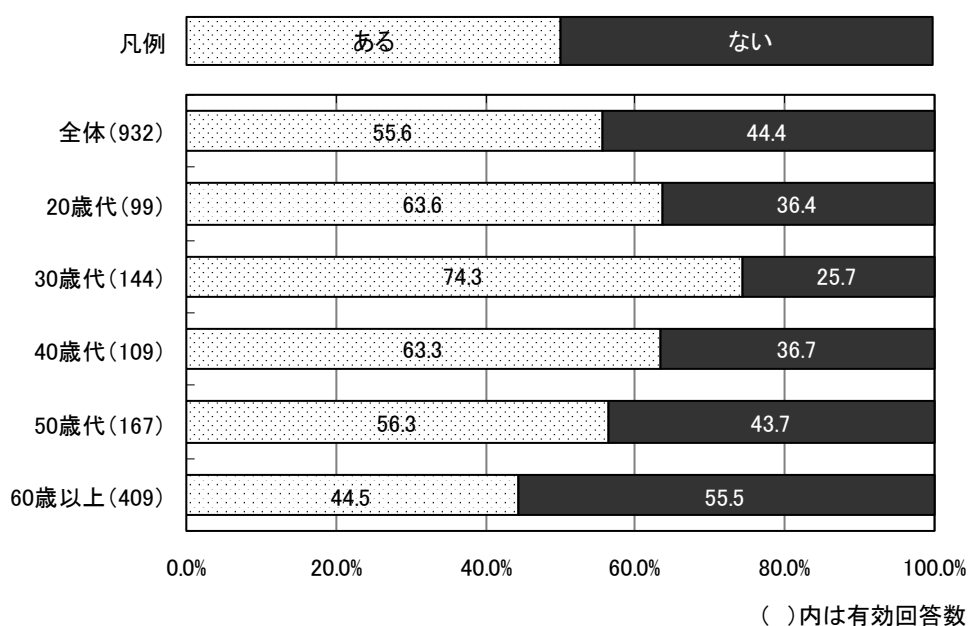
一般成人の「食事バランスガイド」のイラストの周知度を性別で見ると、女性では「食事バランスガイド」のイラストを見たことがある人は69.2%で、男性の34.4%に比べ高くなっています。

図1-(18)-1 「食事バランスガイド（イラスト）」の周知度（一般成人 性別）



一般成人の年代別で見ると、見たことがある人は30歳代で最も高く74.3%となっており、年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向にあります。

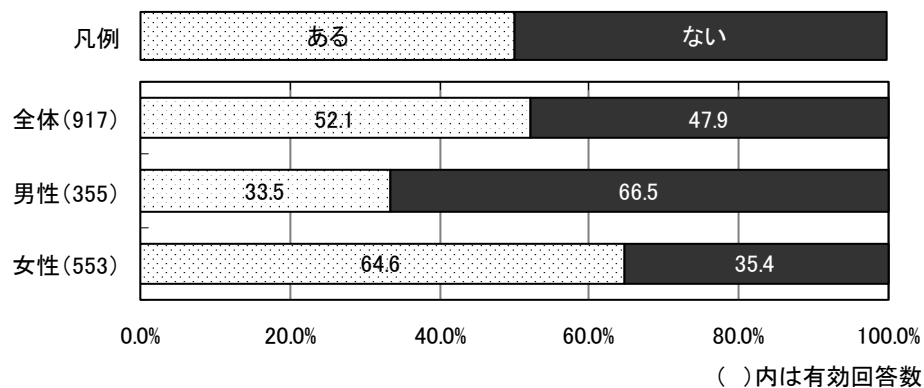
図1-(18)-2 「食事バランスガイド（イラスト）」の周知度（一般成人 年代別）



## ② 「食事バランスガイド」言葉の周知度

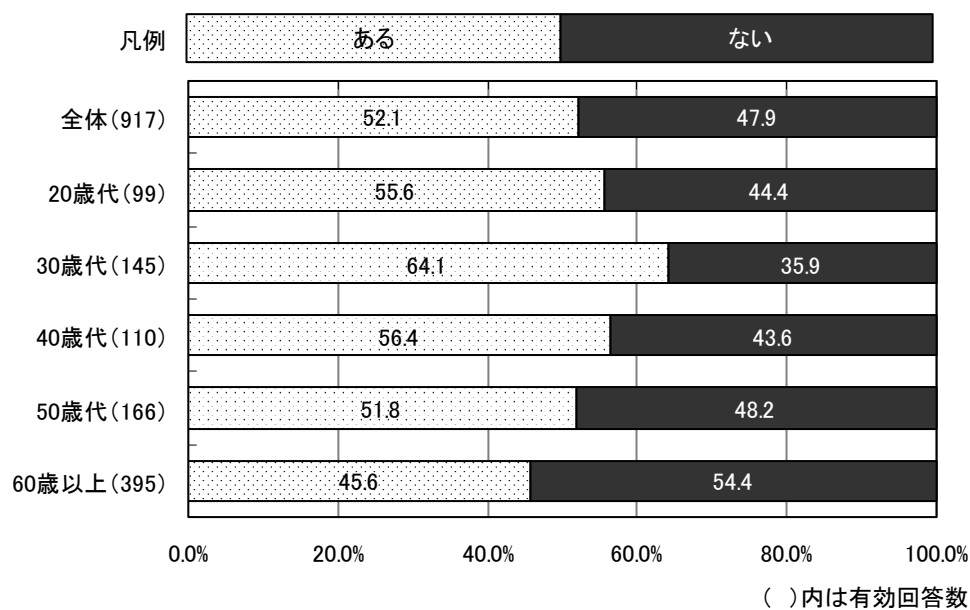
一般成人の「食事バランスガイド」の言葉の周知度を性別で見ると、「食事バランスガイド」の言葉を聞いたことがある人は、女性で64.6%となっており、男性の33.5%に比べ高くなっています。

図 1-(18)-3 「食事バランスガイド（言葉）」の周知度（一般成人 性別）



一般成人の年代別で見ると、聞いたことがある人は30歳代で最も高く64.1%となっており、年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向にあります。

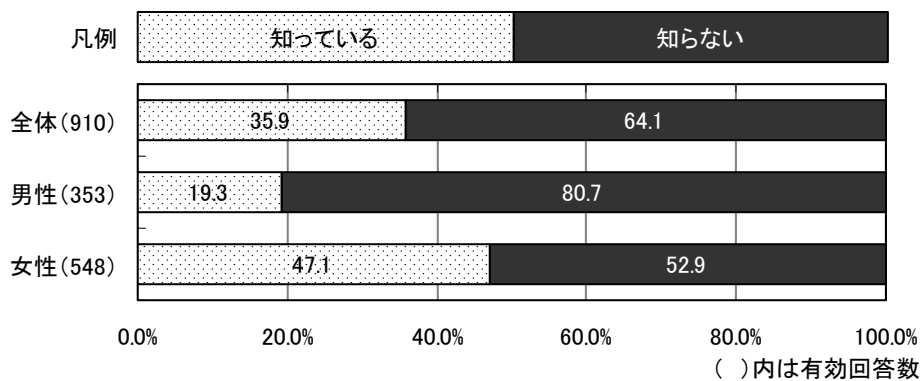
図 1-(18)-4 「食事バランスガイド（言葉）」の周知度（一般成人 年代別）



③ 「食事バランスガイド」内容の理解度

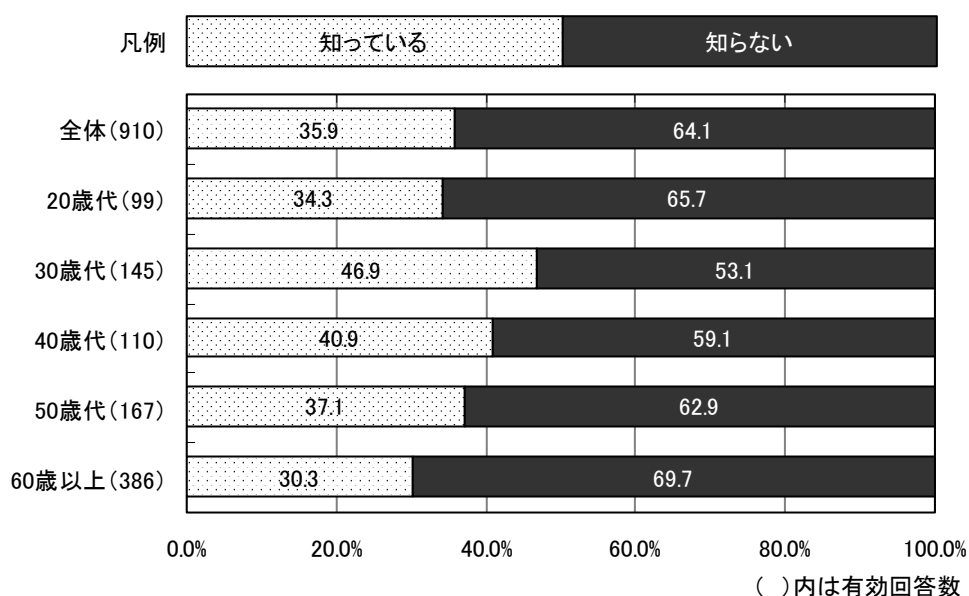
一般成人の「食事バランスガイド」の内容の理解度を性別で見ると、「食事バランスガイド」の内容を理解している人は、女性では47.1%となっており、男性に比べ27.8ポイント高くなっています。

図1-(18)-5 「食事バランスガイド(内容)」の理解度(一般成人 性別)



一般成人の年代別で見ると、内容を理解している人は30歳代で最も高く46.9%となっており、年代が上がるにつれて割合が低くなっています。

図1-(18)-6 「食事バランスガイド(内容)」の理解度(一般成人 年代別)

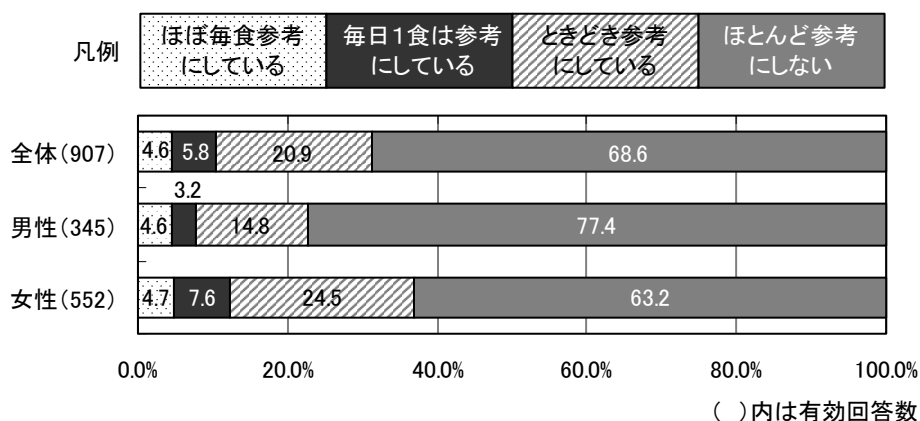




## (19) 食事バランスガイドの利用度

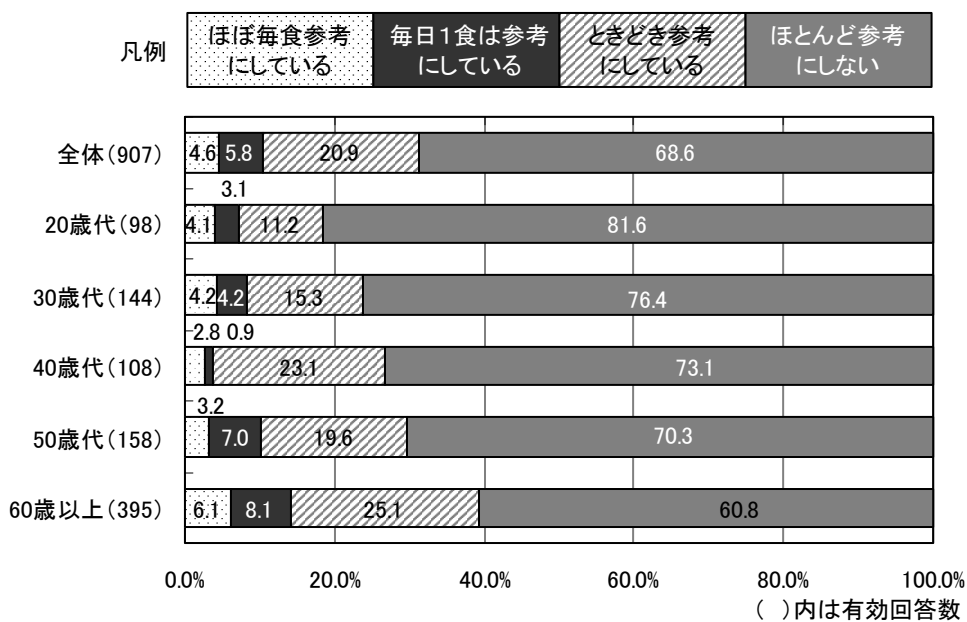
一般成人の「食事バランスガイド」の利用度を性別で見ると、女性では「ほぼ毎食参考になっている」、「毎日1食は参考になっている」、「ときどき参考になっている」を合わせた割合が36.8%となっており、男性に比べ14.2ポイント高くなっています。

図 1-(19)-1 食事バランスガイドの利用度（一般成人 性別）



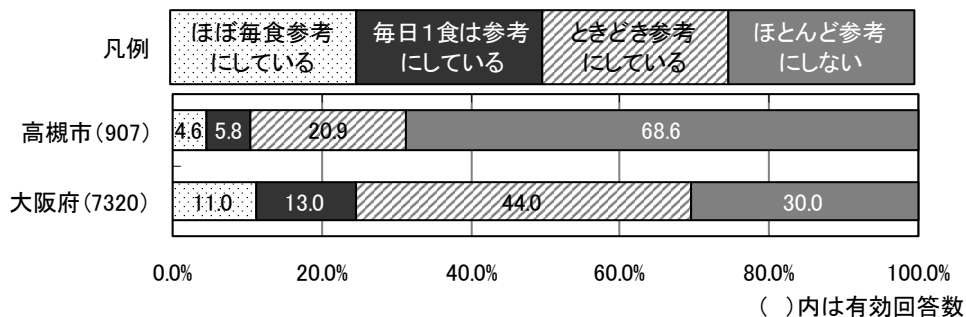
一般成人の年代別で見ると、年代が上がるにつれ、参考になっている割合が高くなっており、60歳以上では、「ほぼ毎食参考になっている」、「毎日1食は参考になっている」、「ときどき参考になっている」を合わせた割合が39.3%となっています。

図 1-(19)-2 食事バランスガイドの利用度（一般成人 年代別）



高槻市の結果を大阪府と比較すると、「ほぼ毎食参考にしている」、「毎日1食は参考にしている」、「ときどき参考にしている」を合わせた割合が31.3%で大阪府と比べて36.7ポイント低くなっています。

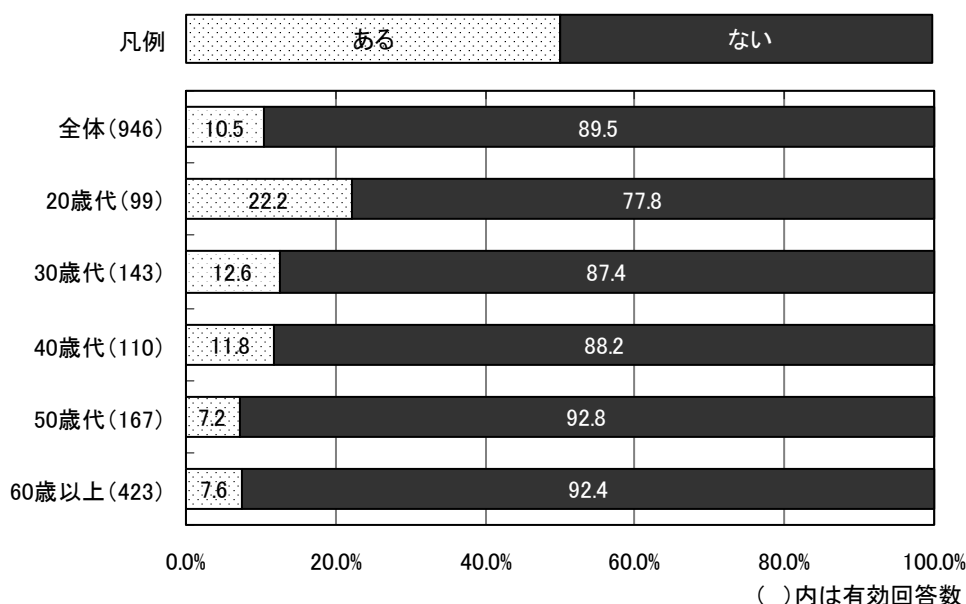
図 1-(19)-3 食事バランスガイドの利用度（一般成人）



(20) 「うちのお店も健康づくり応援団」の周知度

一般成人の「うちのお店も健康づくり応援団」の周知度を年代別で見ると、「ある」の割合が20歳代で22.2%となっています。また、年代が上がるにつれて割合が低くなっており、50歳以上では約7.0%となっています。

図 1-(20)-1 「うちのお店も健康づくり応援団」の周知度（一般成人）

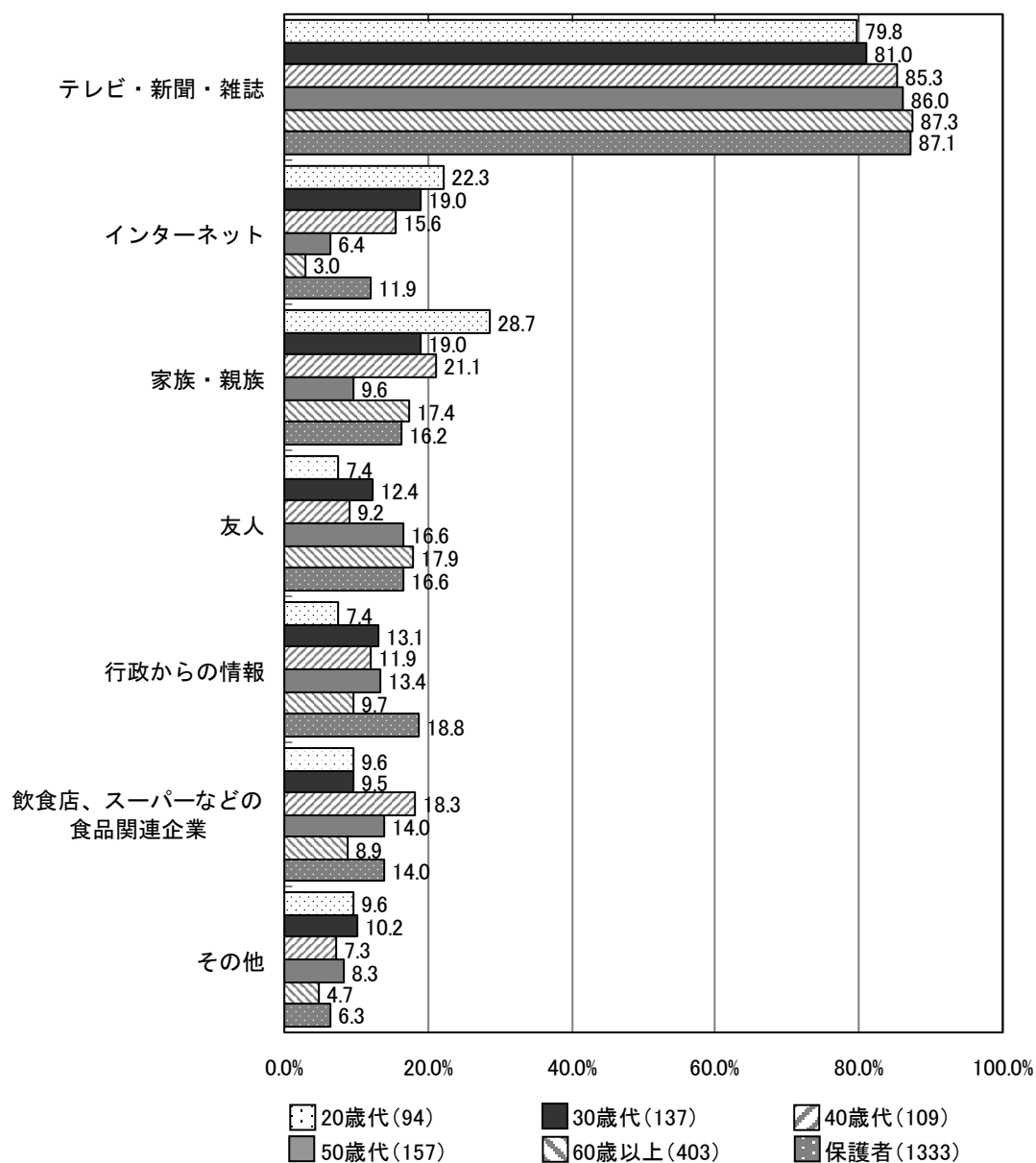


## (21) 食育に関する情報の入手先（複数回答）

一般成人の食育に関する情報の入手先を年代別に見ると、どの年代においても「テレビ・新聞・雑誌」が最も高く約8割となっています。20歳代では、「家族・親族」が28.7%、「インターネット」が22.3%で他の年代に比べ高くなっています。

保護者では、「テレビ・新聞・雑誌」が87.1%となっており、「行政からの情報」が18.8%と他と比べ高くなっています。

図1-(21)-1 食育に関する情報の入手先（一般成人 年代別、保護者）



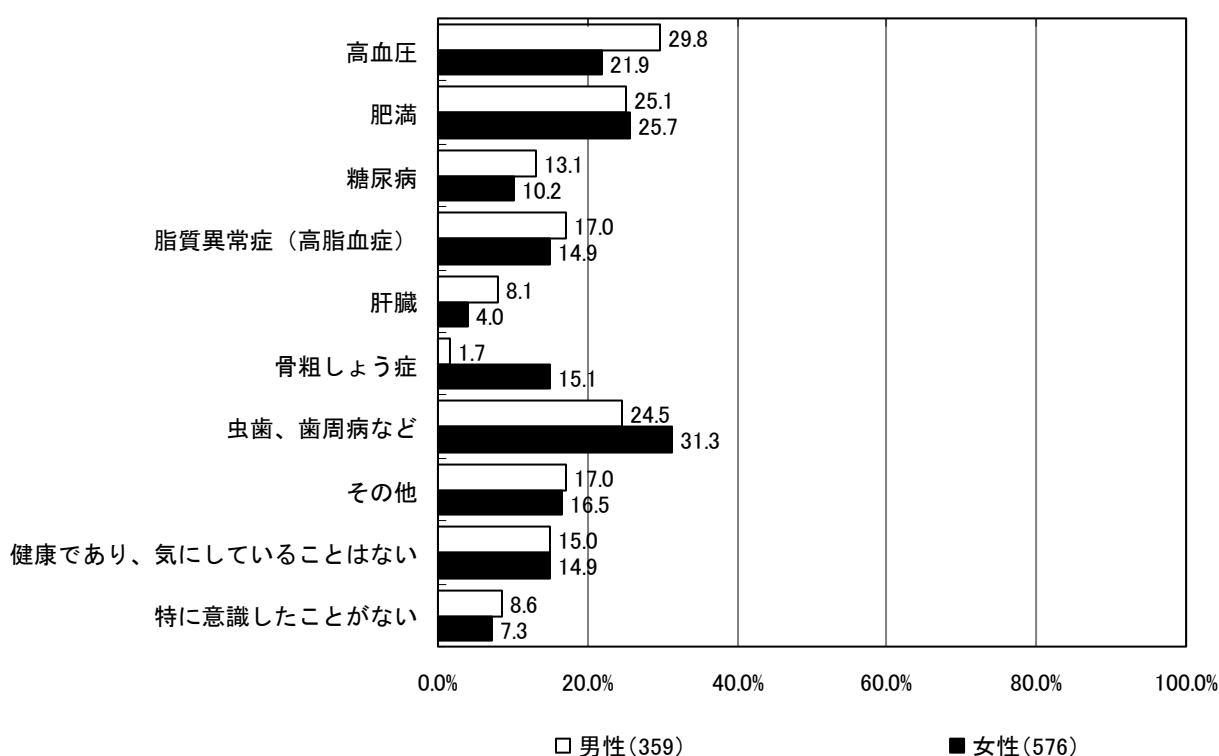
( )内は有効回答数

## 2 健康や生活習慣

### (1) 健康状況（複数回答）

一般成人の健康状況を性別で見ると、男性では「高血圧」が29.8%となっており、女性に比べ7.9ポイント高くなっています。女性では、「虫歯、歯周病など」が31.3%で男性より6.8ポイント、「骨粗しょう症」が15.1%で13.4ポイント高くなっています。また、「健康であり、気にしていることはない」が約15%、「特に意識したことがない」は約8%になっています。

図 2-(1)-1 健康の状況（一般成人 性別）

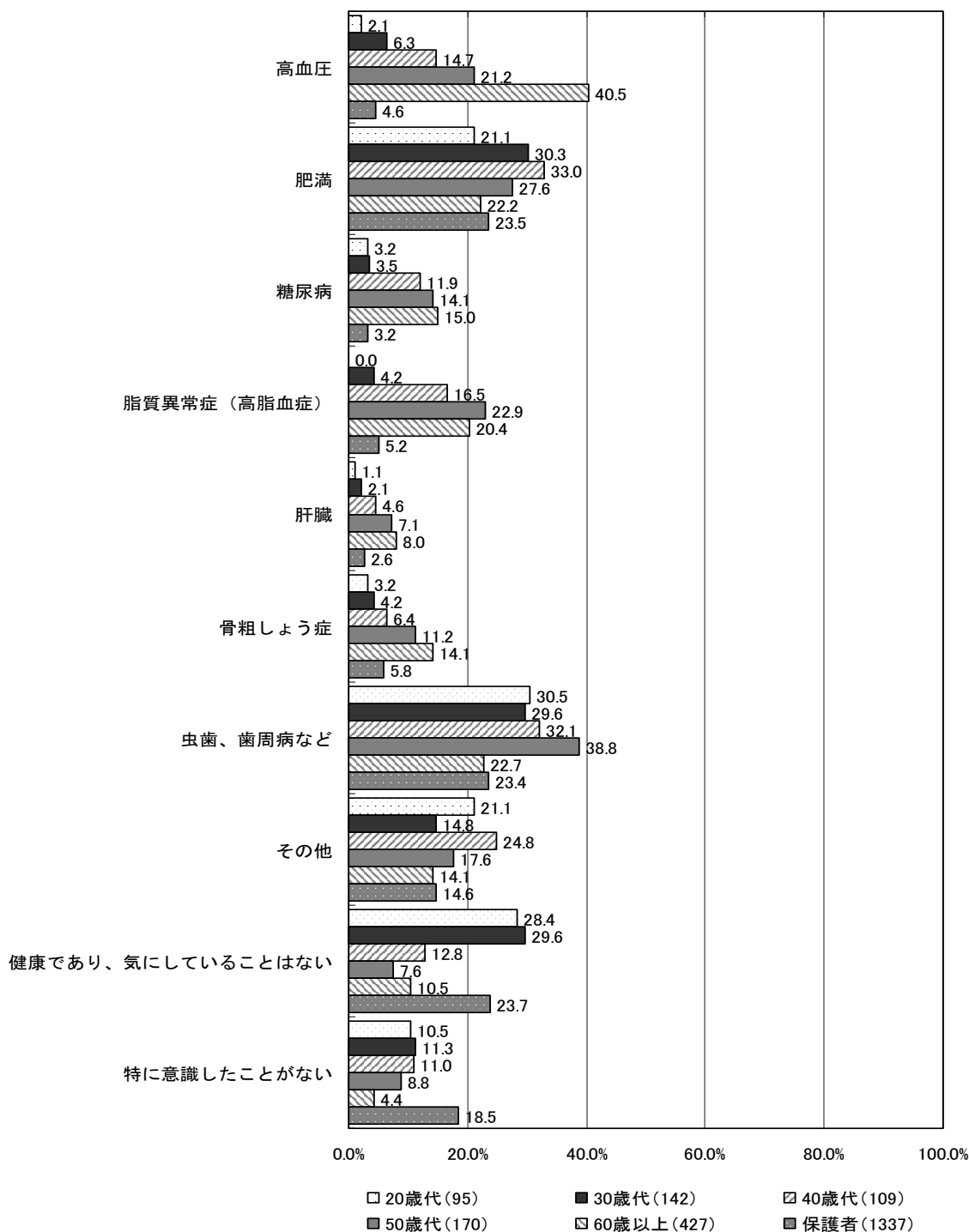


( )内は有効回答数

一般成人の年代別で見ると、60歳以上では「高血圧」が40.5%、50歳代では「虫歯、歯周病など」が38.8%、30～40歳代で「肥満」が3割以上と、他の年代に比べて高くなっています。また、年代が上がるにつれ、「高血圧」、「糖尿病」、「肝臓」、「骨粗しょう症」の割合が高くなっています。

保護者では「健康であり、気にしていることはない」が23.7%、「特に意識したことがない」が18.5%となっており、他と比べ高くなっています。

図2-(1)-2 健康状況（一般成人 年代別）

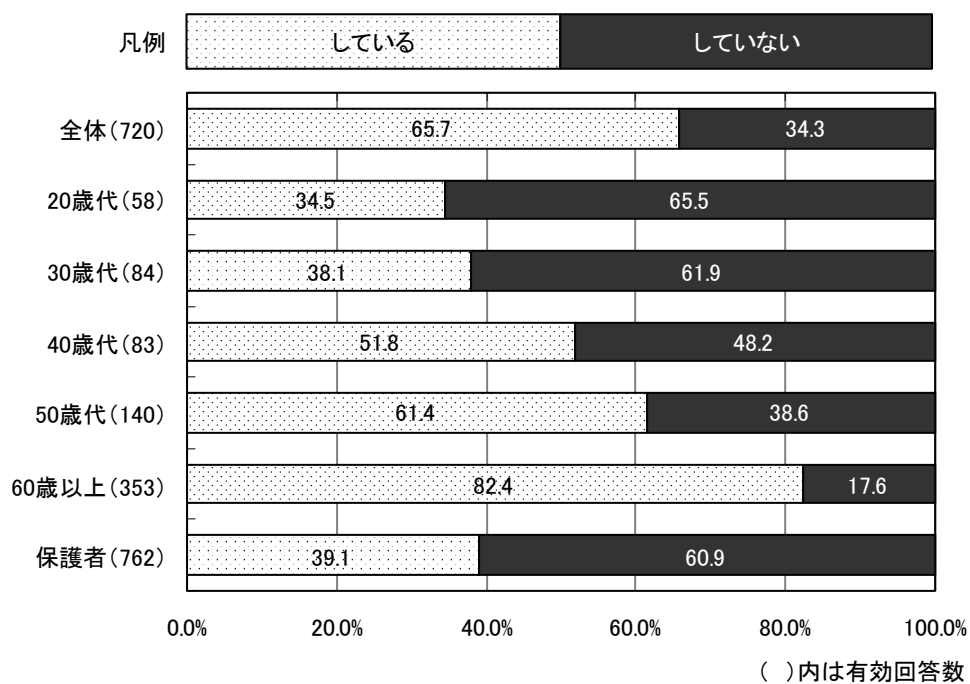


( )内は有効回答数

(2) 医療機関への受診状況

一般成人の医療機関への受診状況を年代別で見ると、年代が上がるにつれ、医療機関で受診している割合が高くなっており、60歳以上では、「受診している」が82.4%となっています。

図 2-(2)-1 医療機関への受診状況（一般成人 年代別）



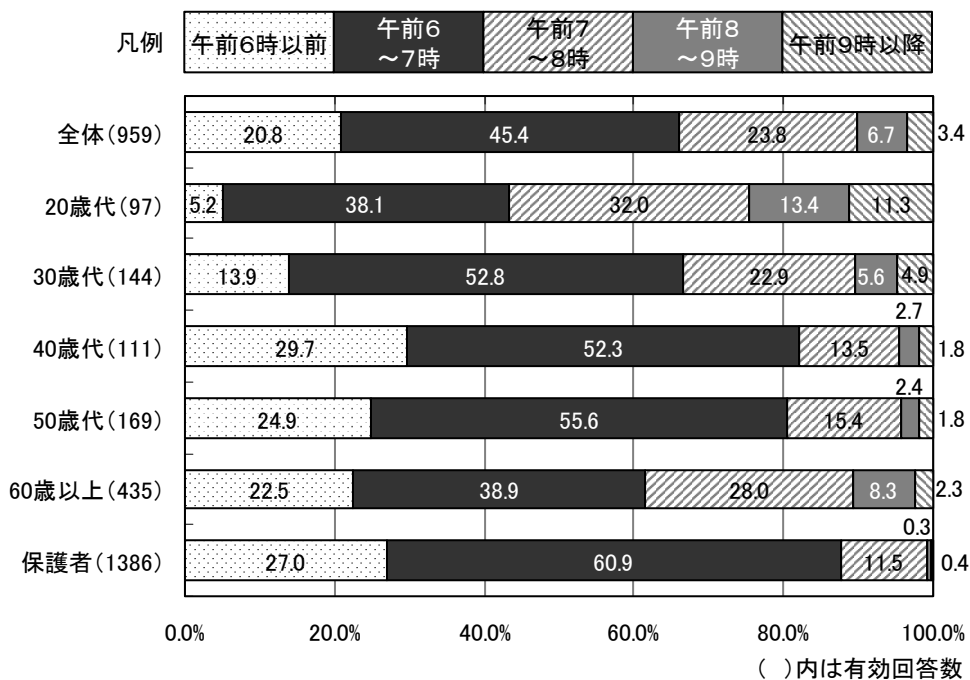
## (3) 起床・就寝時間

## ①起床時間

一般成人の起床時間を年代別で見ると、40歳代、50歳代で起床時間が早くなっており、40歳代では82.0%が午前7時までに起きています。

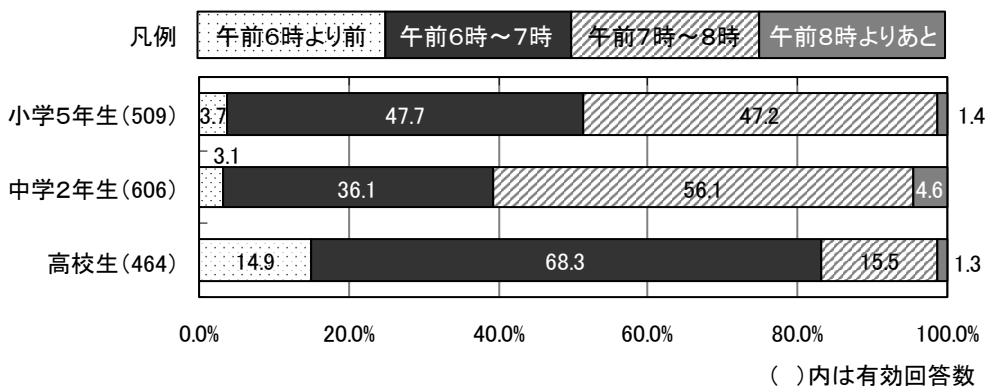
保護者では、87.9%が午前7時までに起床しています。

図 2-(3)-1 起床時間（一般成人 年代別、保護者）



児童生徒の学年別で見ると、高校生では83.2%が午前7時までに起床していますが、小学5年生では51.4%、中学2年生では39.2%になっています。

図 2-(3)-2 起床時間（小中学生・高校生 学年別）



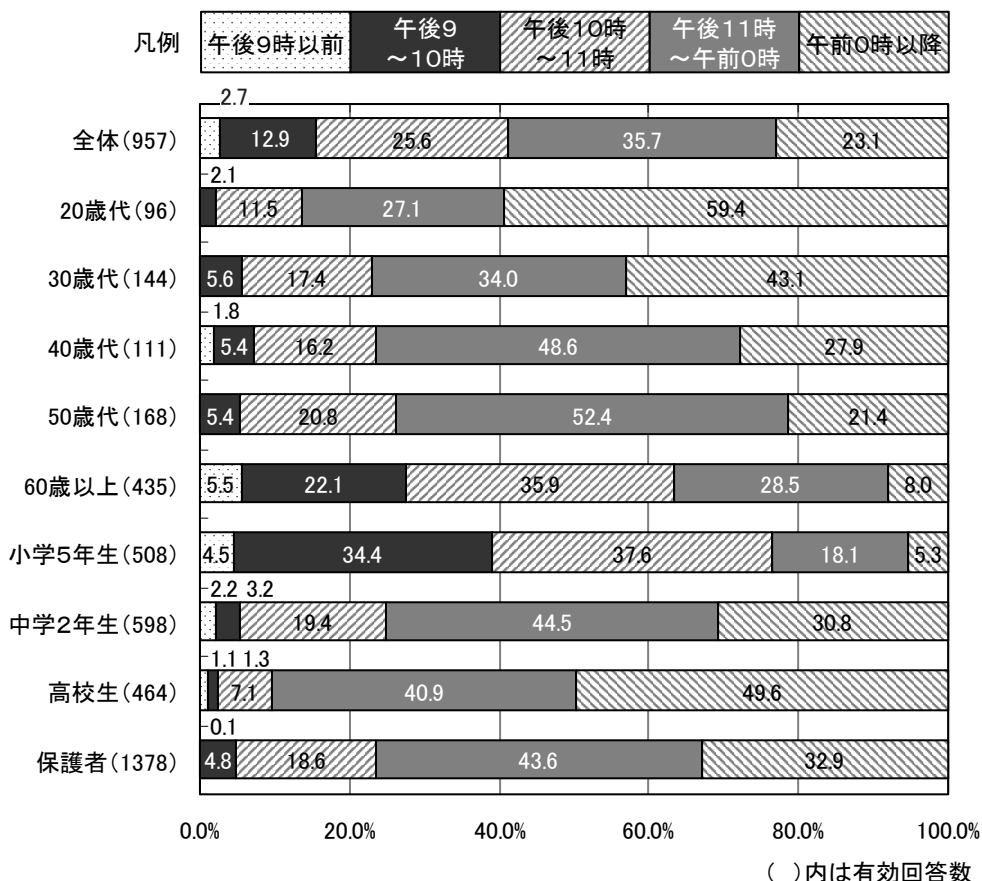
②就寝時間

一般成人の就寝時間を年代別で見ると、年代が下がるにつれ、就寝時間が遅くなる傾向にあり、20歳代では59.4%が「午前0時以降」となっています。

児童生徒の学年別で見ると、学年が上がるにつれて就寝時間が遅くなり、中学2年生では30.8%、高校生では49.6%が「午前0時以降」に就寝しています。

保護者では32.9%が「午前0時以降」に就寝しています。

図 2-(3)-3 就寝時間（一般成人 年代別、児童生徒 学年別 保護者）



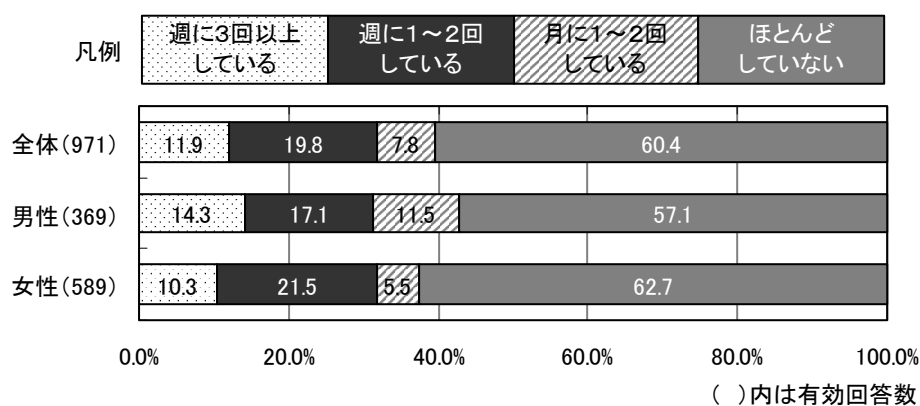


## (4) スポーツ・運動の実施状況

## ①現在

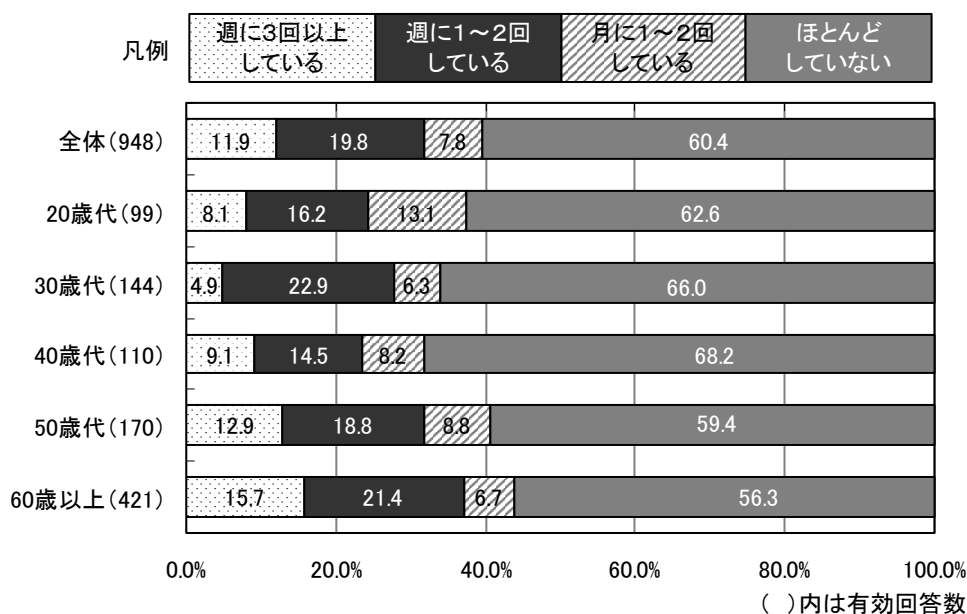
一般成人の現在のスポーツ・運動の実施状況を性別で見ると、女性では「ほとんどしていない」は62.7%となっており、男性に比べ5.6ポイント高くなっています。

図 2-(4)-1 現在のスポーツ・運動の状況（一般成人 性別）



一般成人の年代別で見ると、「ほとんどしていない」と答えた人は、40歳代で最も高く、68.2%となっていますが、60歳以上では56.3%となっています。

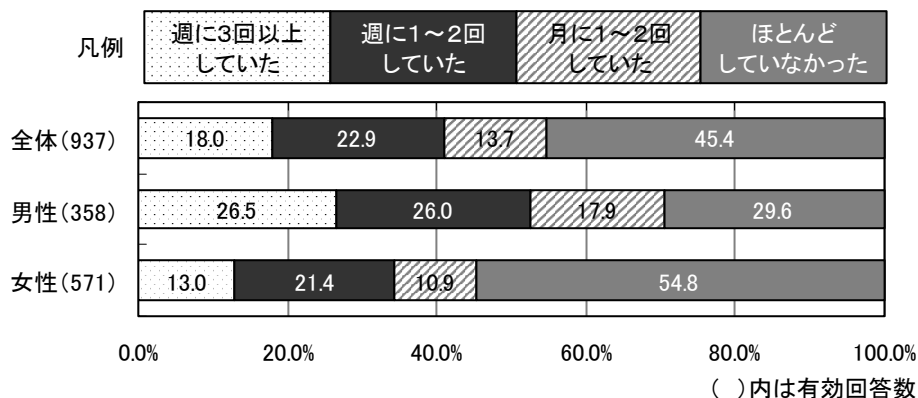
図 2-(4)-2 現在のスポーツ・運動の状況（一般成人 年代別）



②20歳前後のとき

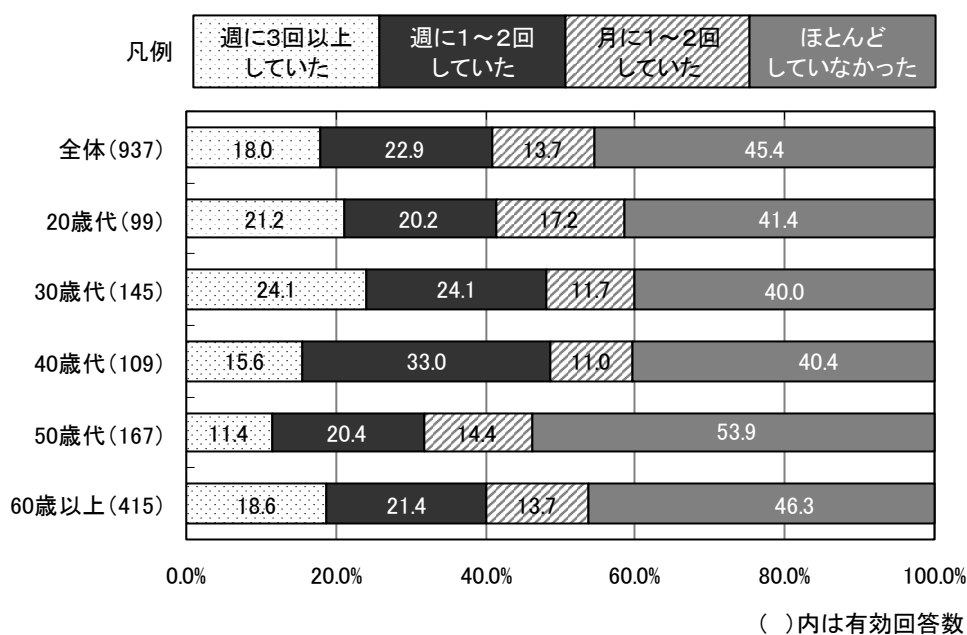
一般成人の20歳前後のときのスポーツ・運動の実施状況を性別で見ると、「ほとんどしていなかった」と答えた人は、女性で54.8%となっており、男性に比べ25.2ポイント高くなっています。

図2-(4)-3 20歳前後のときのスポーツ・運動の状況（一般成人 性別）



一般成人の年代別で見ると、「ほとんどしていなかった」と答えた人は約4割となっていますが、50歳代では53.9%となっています。

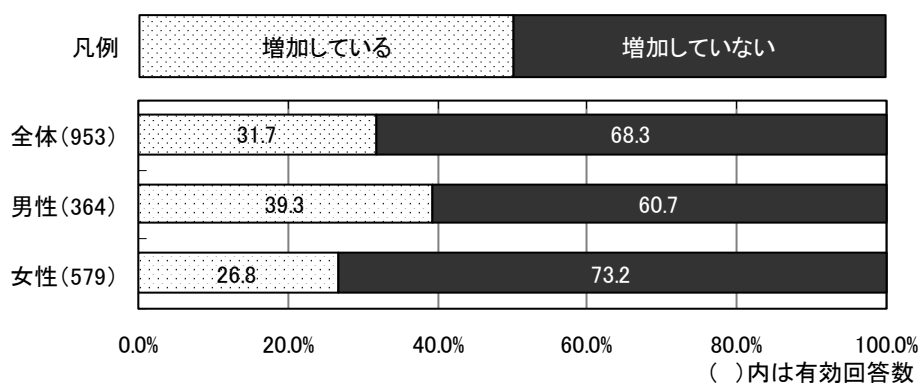
図2-(4)-4 20歳前後のときのスポーツ・運動の状況（一般成人 年代別）



## (5) 体重の増加状況

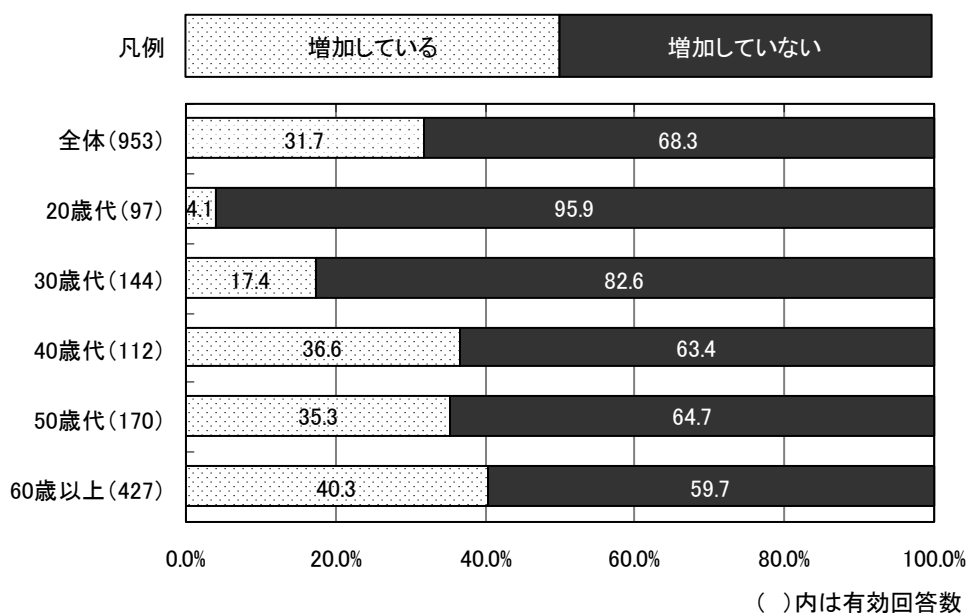
一般成人の20歳前後のときからの体重の増加状況を性別で見ると、男性では「増加している」の割合が39.3%となっており、女性に比べ12.5ポイント高くなっています。

図 2-(5)-1 体重の増加状況（一般成人 年代別）



一般成人の年代別で見ると、年代が上がるにつれて「増加している」と答えた人の割合が高くなる傾向にあり、60歳以上では40.3%となっています。

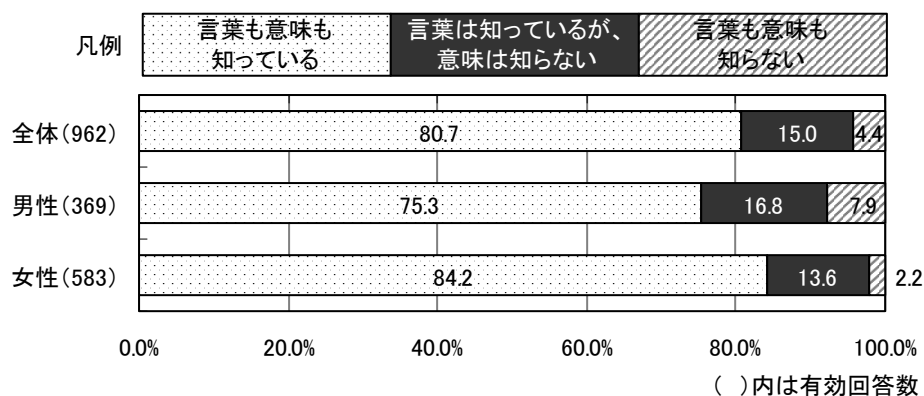
図 2-(5)-2 体重の増加状況（一般成人 年代別）



### (6) メタボリックシンドロームの周知度

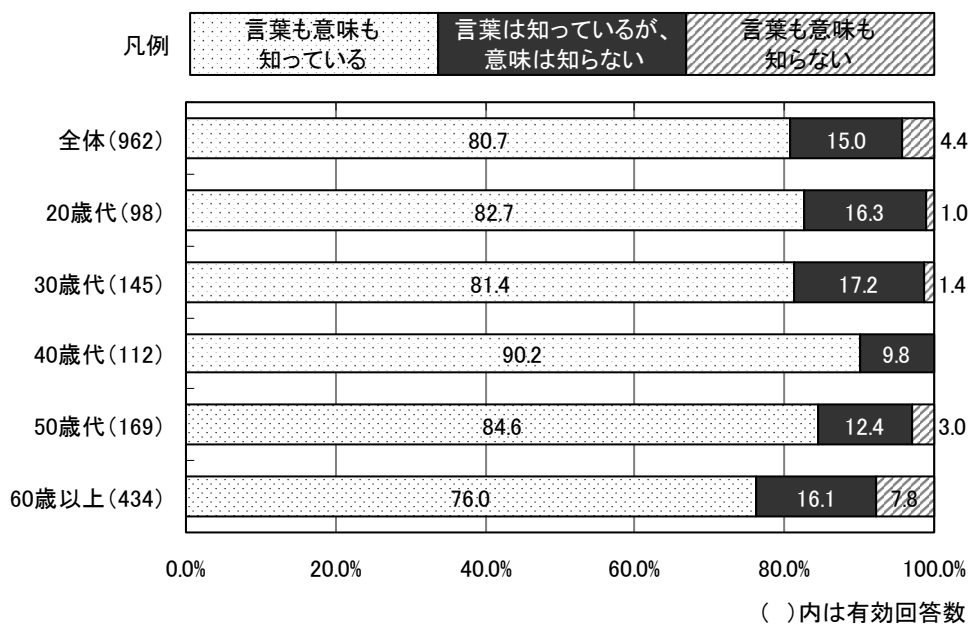
一般成人のメタボリックシンドロームの周知度を性別で見ると、女性で「言葉も意味も知っている」の割合が84.2%となっており、男性と比べて8.9ポイント高くなっています。

図 2-(6)-1 メタボリックシンドロームの周知度（一般成人 性別）



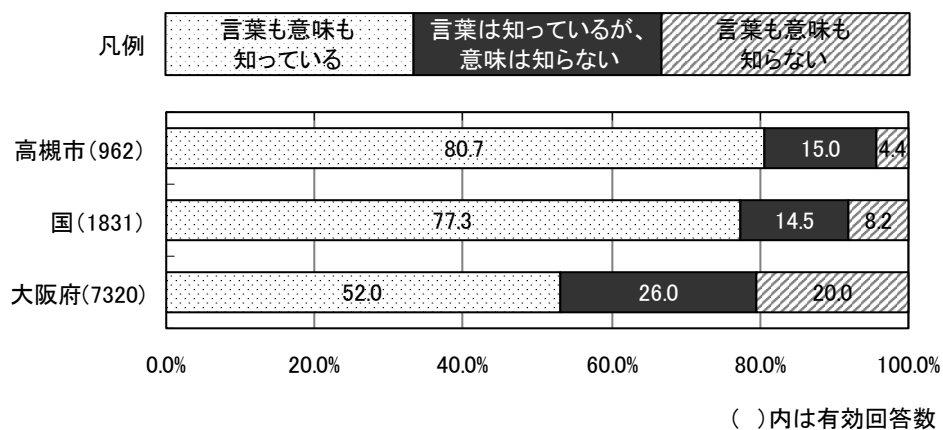
一般成人の年代別で見ると、40歳代で「言葉も意味も知っている」が90.2%と最も高くなっています。

図 2-(6)-2 メタボリックシンドロームの周知度（一般成人 年代別）



高槻市の結果を国や大阪府と比較すると、「言葉も意味も知っている」が80.7%となっており、国より3.4ポイント、大阪府より28.7ポイント高くなっています。

図 2-(6)-3 メタボリックシンドロームの認知度（一般成人）



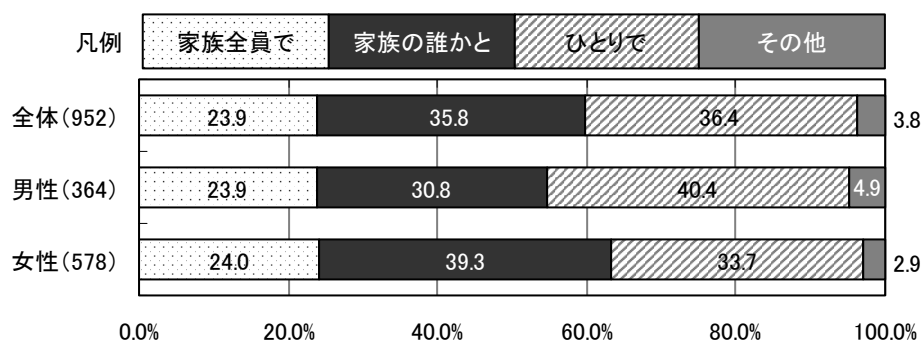
### 3 食を通じたコミュニケーションなど

#### (1) 食事を一緒にとる家族の状況

##### ①朝食

一般成人の朝食を一緒にとる家族の状況を性別で見ると、男性では「ひとりで」の割合が40.4%となっており、女性と比べて高くなっています。また、女性では「家族の誰かと」の割合が39.3%となっており、男性と比べて高くなっています。

図3-(1)-1 朝食を一緒にとる家族の状況（一般成人 性別）



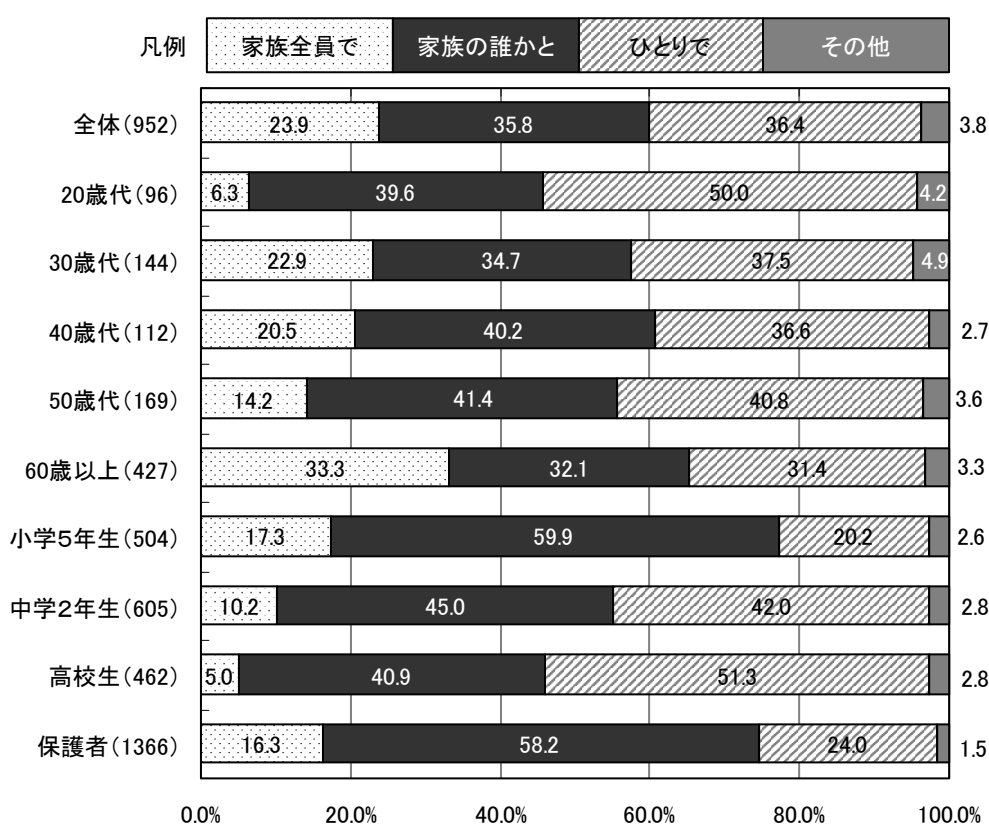
( )内は有効回答数

一般成人の年代別で見ると、20歳代では「ひとりで」が最も高く50.0%となっています。60歳以上では「家族全員で」が33.3%で、他の年代に比べ高くなっています。

児童生徒の学年別で見ると、小学5年生では「家族全員で」と「家族の誰かと」を合わせた割合が77.2%になっていますが、学年が上がるにつれて割合が低くなり、高校生では45.9%になっています。

保護者では、「家族の誰かと」が最も高く、58.2%となっています。

図3-(1)-2 朝食を一緒にとる家族の状況（一般成人 年代別、児童生徒 学年別、保護者）

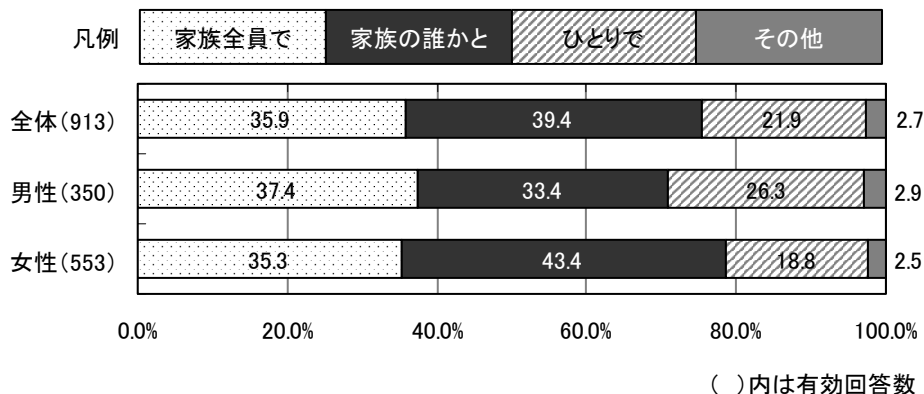


( )内は有効回答数

②夕食

一般成人の夕食を一緒にとる家族の状況を性別で見ると、男性では「ひとりで」の割合が26.3%となっており、女性と比べ7.5ポイント高くなっています。また、女性では「家族の誰かと」の割合が43.4%となっており、男性と比べて高くなっています。

図3-(1)-3 夕食を一緒にとる家族の状況（一般成人 性別）

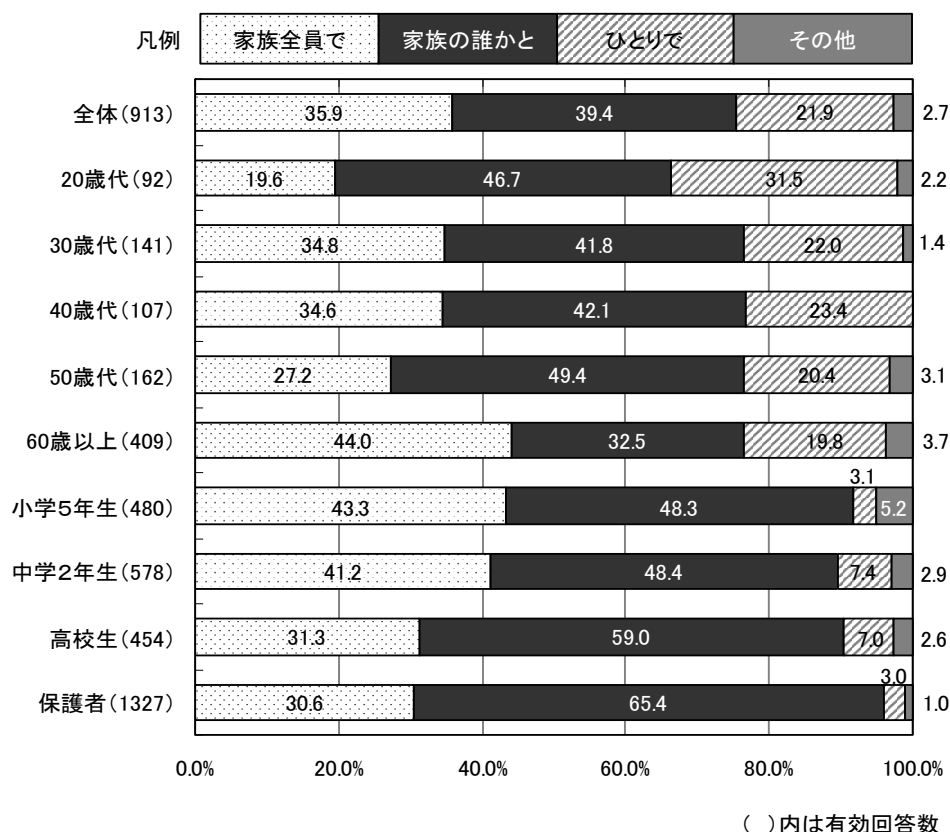


一般成人の年代別で見ると、20歳代では「ひとりで」が31.5%となっていますが、他の年代では「家族全員で」と「家族の誰かと」を合わせた割合が約8割になっています。

児童生徒の学年別で見ると、小中学生では「家族全員で」の割合が4割を超えています、高校生では31.3%になっています。

保護者では、「家族の誰かと」が最も高く、65.4%となっています。

図3-(1)-4 夕食を一緒にとる家族の状況（一般成人 年代別、児童生徒 学年別、保護者）

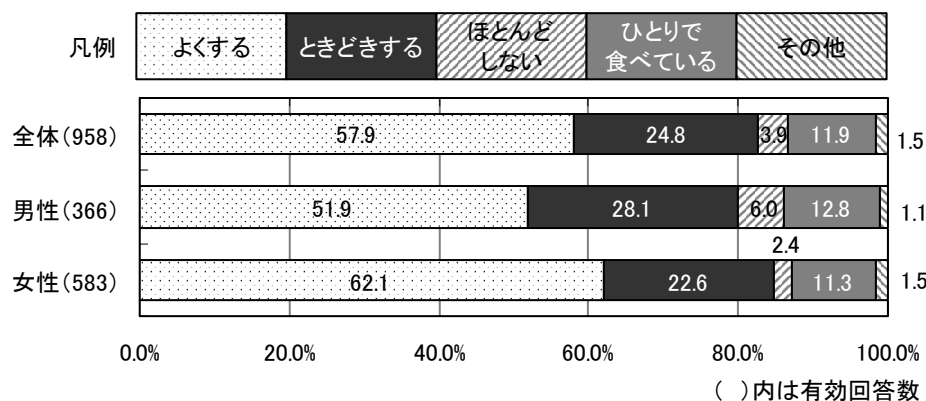




## (2) 食事中の会話の状況

一般成人の食事中の会話の状況を性別で見ると、女性では「よくする」の割合が62.1%となっており、男性と比べて10.2ポイント高くなっています。

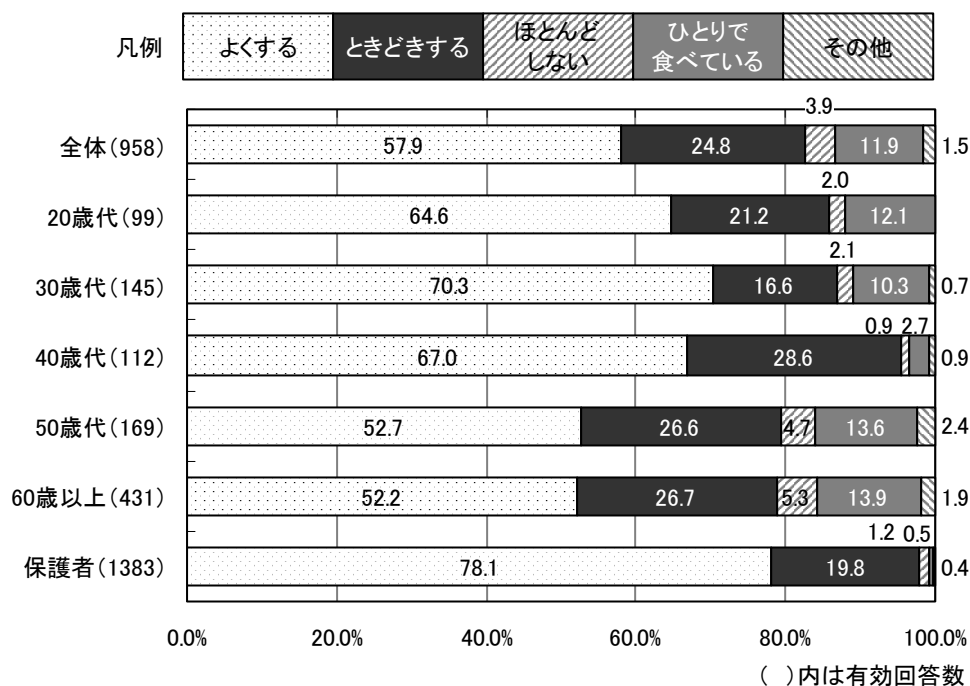
図 3-(2)-1 食事中の会話の状況（一般成人 性別）



一般成人の年代別で見ると、「よくする」は30歳代で最も高く70.3%になっており、「よくする」、「ときどきする」を合わせた割合では、40歳代が最も高く95.6%になっています。

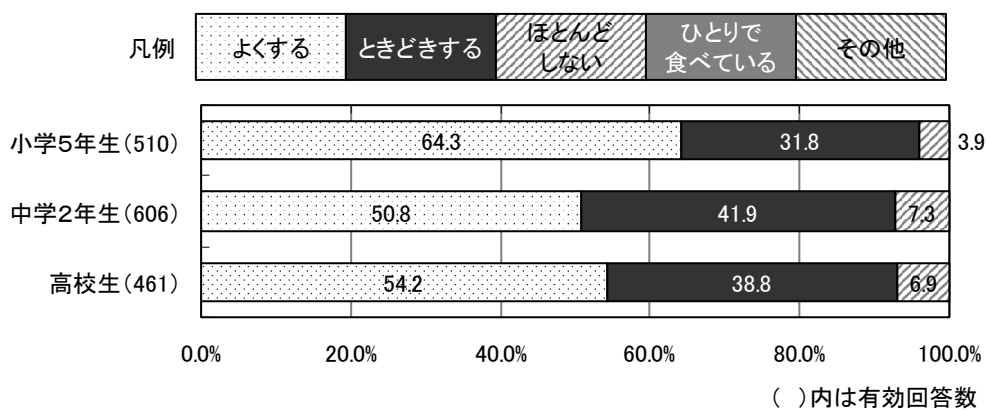
保護者では、「よくする」が78.1%になっており、他と比べ高くなっています。

図 3-(2)-2 食事中の会話の状況（一般成人 年代別、保護者）



児童生徒の学年別で見ると、小学5年生では「よくする」が64.3%になっていますが、中学2年生、高校生になると約半数になっています。

図 3-(2)-3 食事中の会話の状況（児童生徒 学年別）



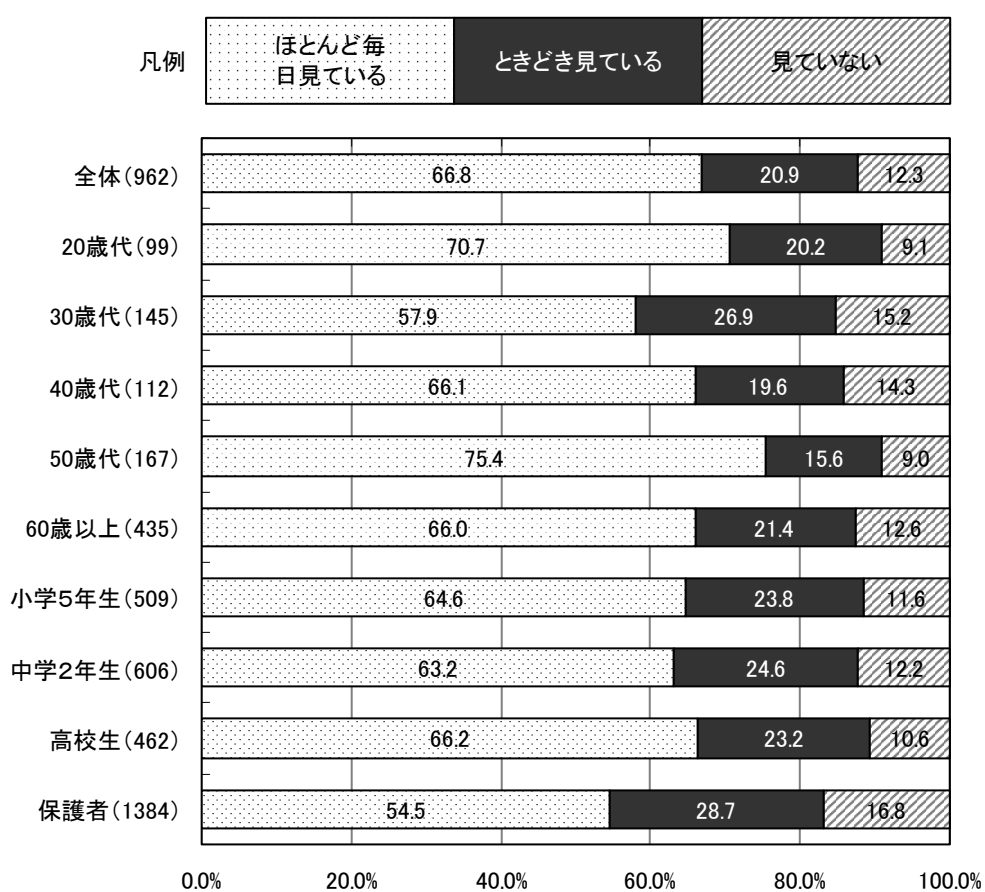
### (3) 食事中のテレビ・携帯電話の状況

一般成人の食事中のテレビ・携帯電話の状況を年代別で見ると、「ほとんど毎日見ている」と「ときどき見ている」を合わせた割合は、どの年代においても8割以上になっています。

児童生徒の学年別で見ると、一般成人と同様に「ほとんど毎日見ている」と「ときどき見ている」を合わせた割合が9割近くになっています。

保護者では「ほとんど毎日見ている」が54.5%となっており、他と比べ低くなっています。

図3-(3)-1 食事中のテレビ・携帯電話の状況（一般成人 年代別、児童生徒 学年別、保護者）

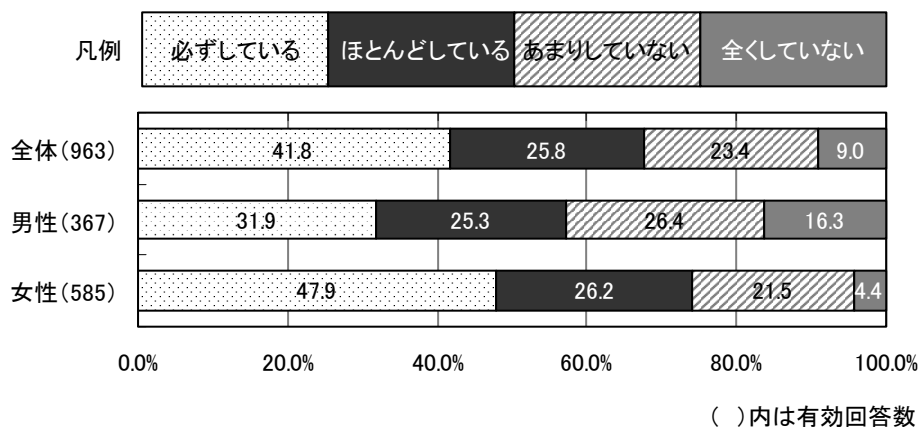


( )内は有効回答数

### (4) 食事の挨拶の状況

一般成人の食事の挨拶の状況を性別で見ると、女性では「必ずしている」、「ほとんどしている」を合わせた割合が74.1%となっており、男性に比べて高くなっています。

図3-(4)-1 食事の挨拶の状況（一般成人 性別）

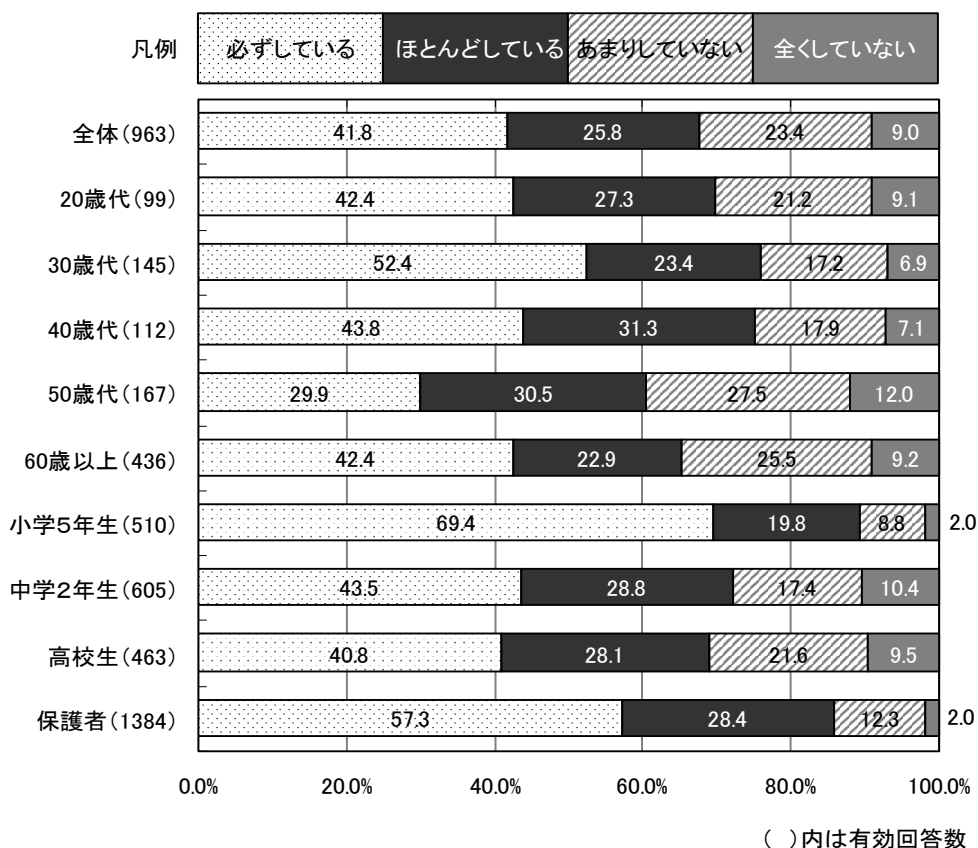


一般成人の年代別で見ると、「必ずしている」は30歳代が最も高く52.4%で、次いで40歳代が43.8%となっています。

児童生徒の学年別で見ると、小学5年生では「必ずしている」が69.4%となっていますが、中学2年生、高校生になると4割程度になっています。

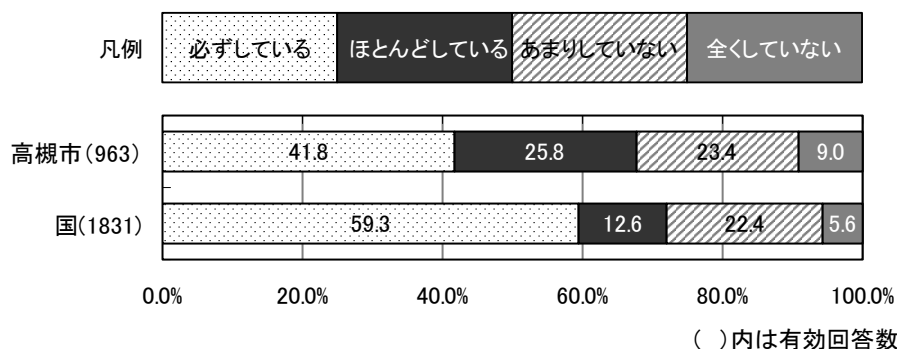
保護者では、「必ずしている」は57.3%になっています。

図3-(4)-2 食事の挨拶の状況（一般成人 年代別、児童生徒 学年別、保護者）



高槻市の結果を国と比較すると、「必ずしている」は41.8%で、国より17.5ポイント低くなっています。

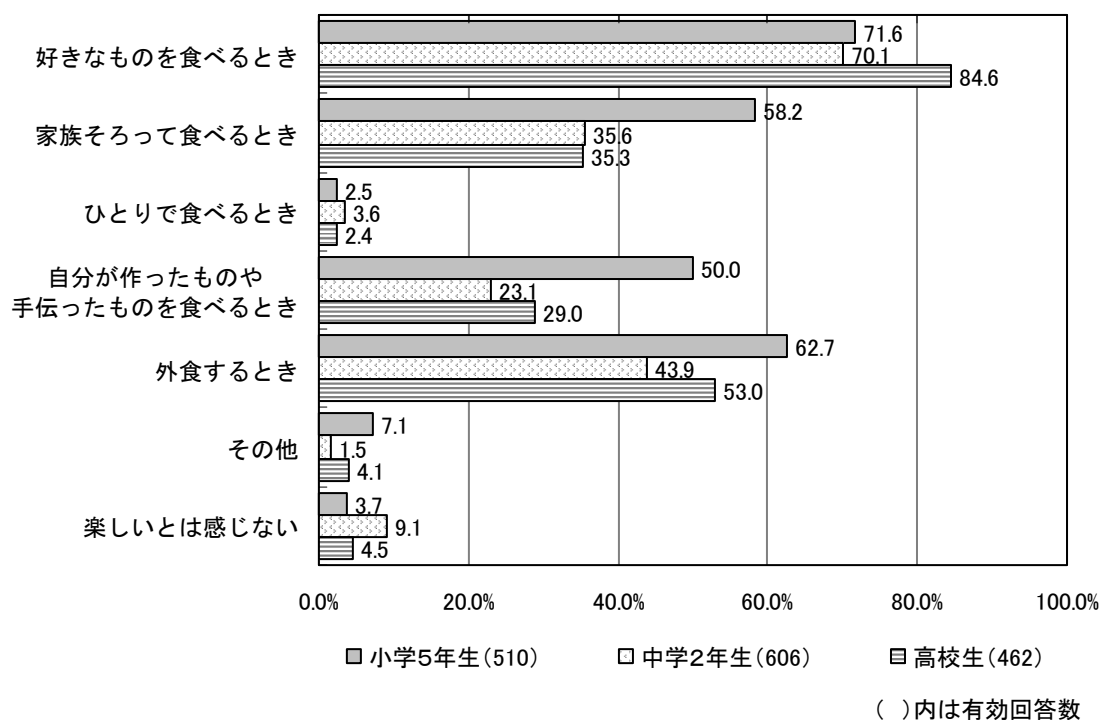
図3-(4)-3 食事の挨拶の状況（一般成人）



### (5) 食事を楽しいと感じること

児童生徒の食事を楽しいと感じることを学年別で見ると、いずれの学年においても「好きなもの食べるとき」が最も高くなっており、高校生では84.6%になっています。小学5年生では「家族そろって食べるとき」が58.2%、「自分が作ったものや手伝ったものを食べるとき」が50.0%となっていますが、中学2年生、高校生では20ポイント程度低くなっています。

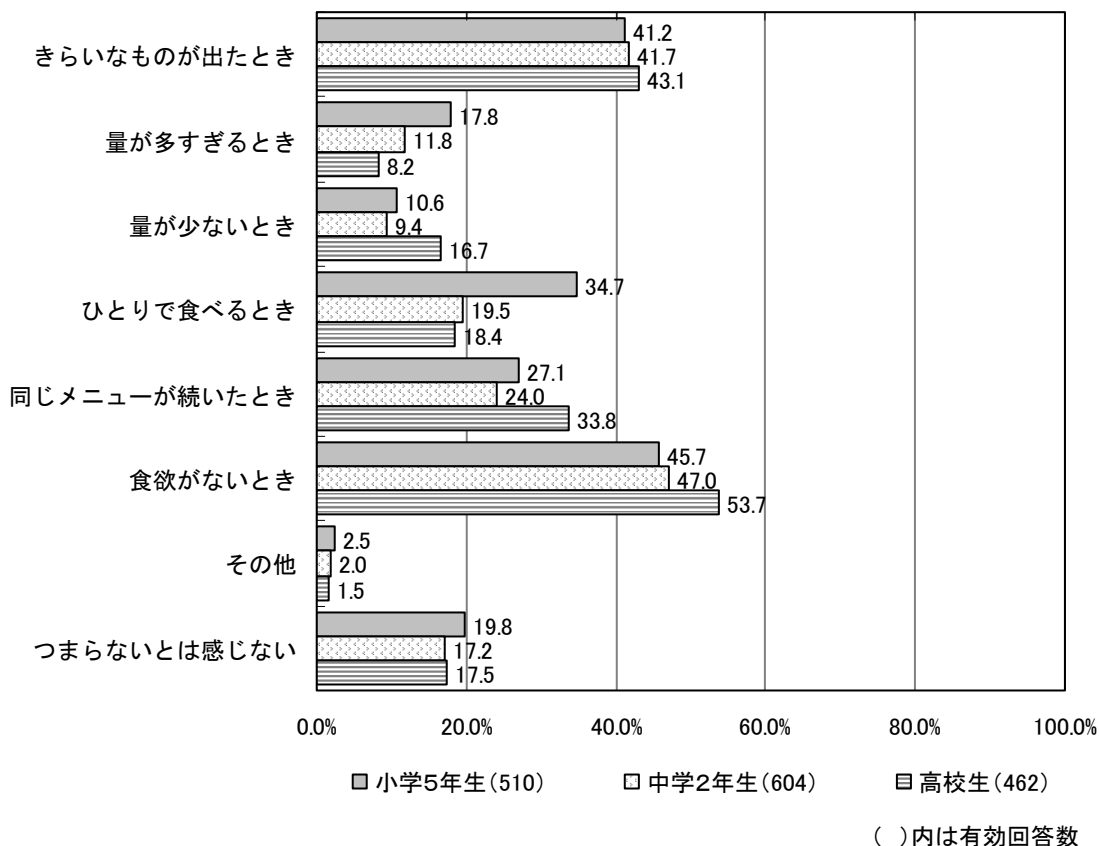
図3-(5)-1 食事を楽しいと感じること（児童生徒 学年別）



### (6) 食事をつまらなと感じること

児童生徒の食事をつまらなと感じることを学年別で見ると、「食欲がないとき」が最も高く、次いで「きれいなものが出たとき」となっています。小学5年生では「ひとりで食べる時」が34.7%となっていますが、中学2年生、高校生では約2割になっています。

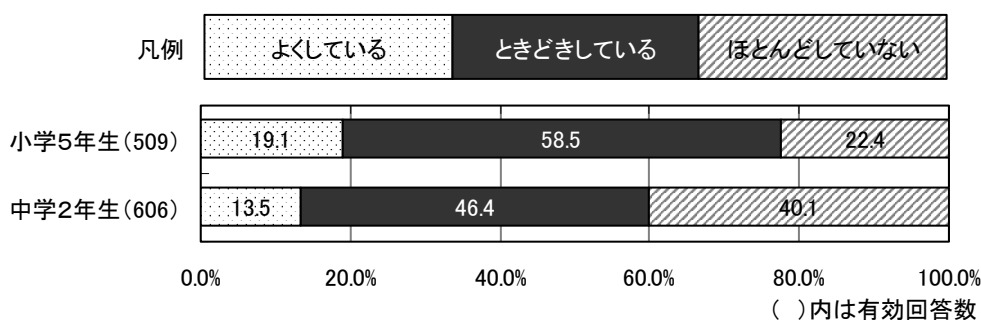
図3-(6)-1 食事をつまらなと感じること（児童生徒 学年別）



### (7) 料理の手伝いの実施状況

児童生徒の料理の手伝いの実施状況を学年別で見ると、小学5年生では「よくしている」、「ときどきしている」を合わせた割合が77.6%になっているのに対して、中学2年生では、59.9%になっています。

図3-(6)-1 料理の手伝いの実施状況（児童生徒 学年別）

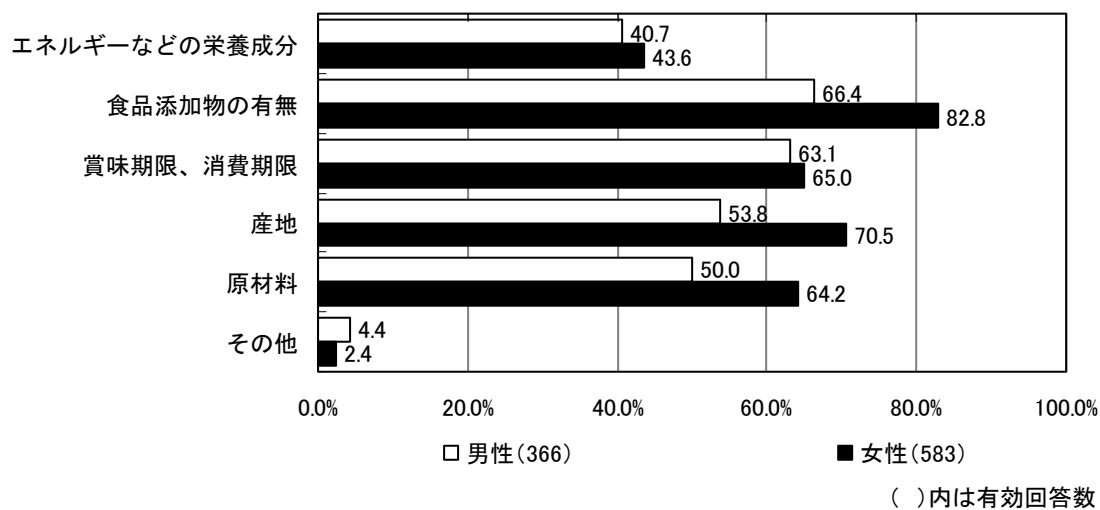


## 4 食の安心・安全

### (1) 必要とする食材・食品の情報（複数回答）

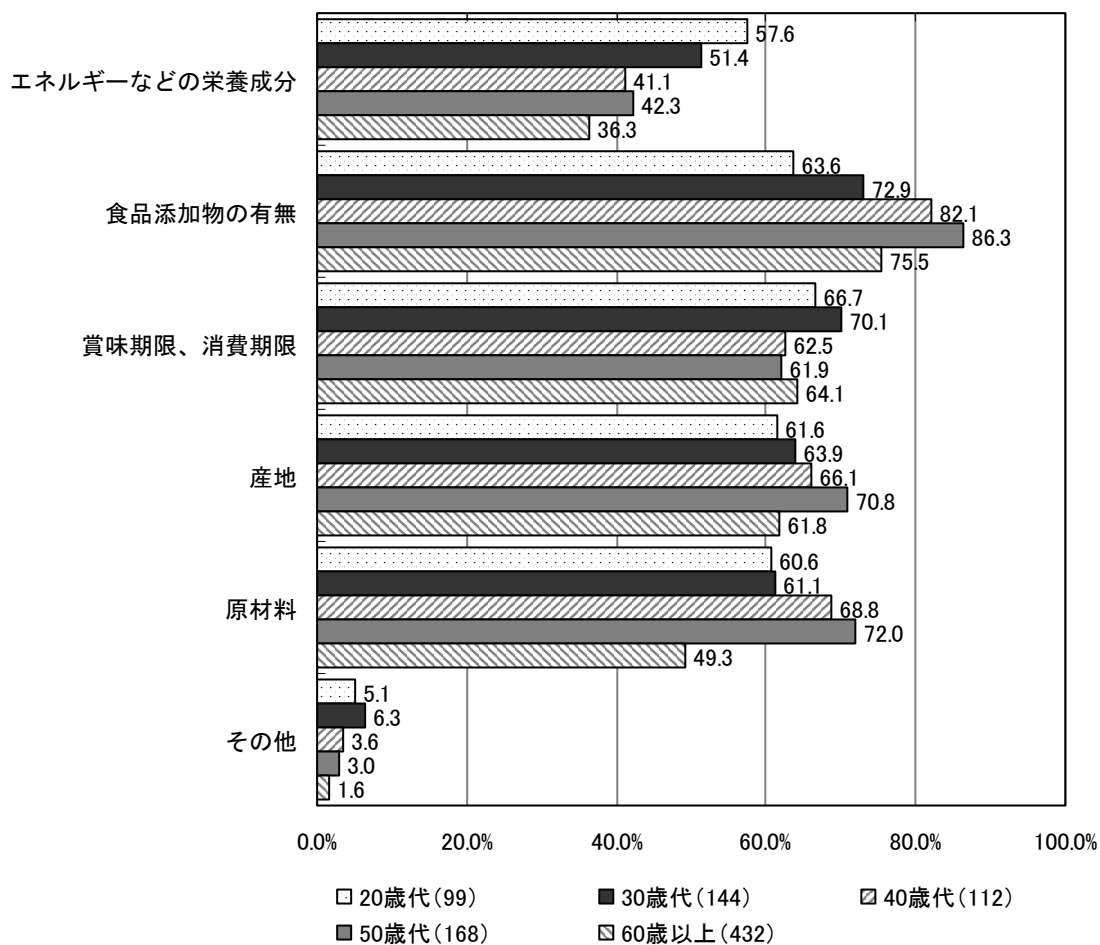
一般成人の必要とする食材・食品の情報を性別で見ると、女性では「食品添加物の有無」が82.8%、「産地」が70.5%、「原材料」の割合が64.2%となっており、どの項目においても男性に比べ高くなっています。

図 4-(1)-1 必要とする食材・食品の情報（一般成人 性別）



一般成人の年代別で見ると、30歳代以上で「食品添加物の有無」が最も高くなっており、50歳代では86.3%になっていますが、20歳代では「賞味期限・消費期限」が最も高くなっています。「エネルギーなどの栄養成分」については、20歳代で57.6%になっていますが、年代が上がるにつれて割合が低くなっています。

図4-(1)-2 必要とする食材・食品の情報（一般成人 年代別）



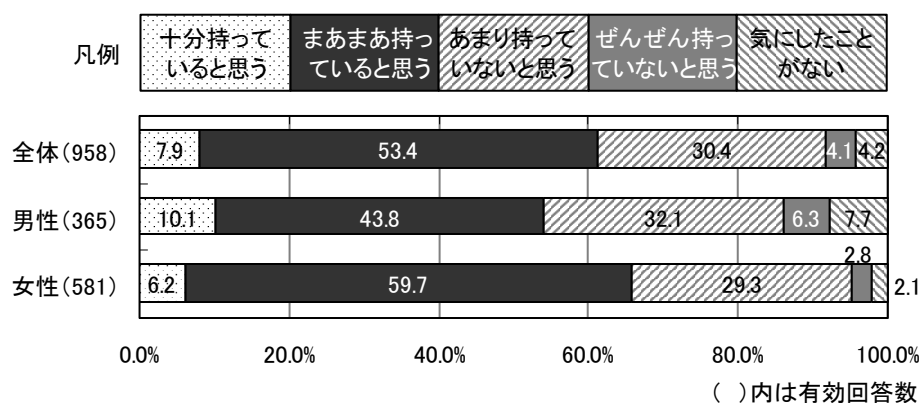
( )内は有効回答数



## (2) 食の安全に関する知識の状況

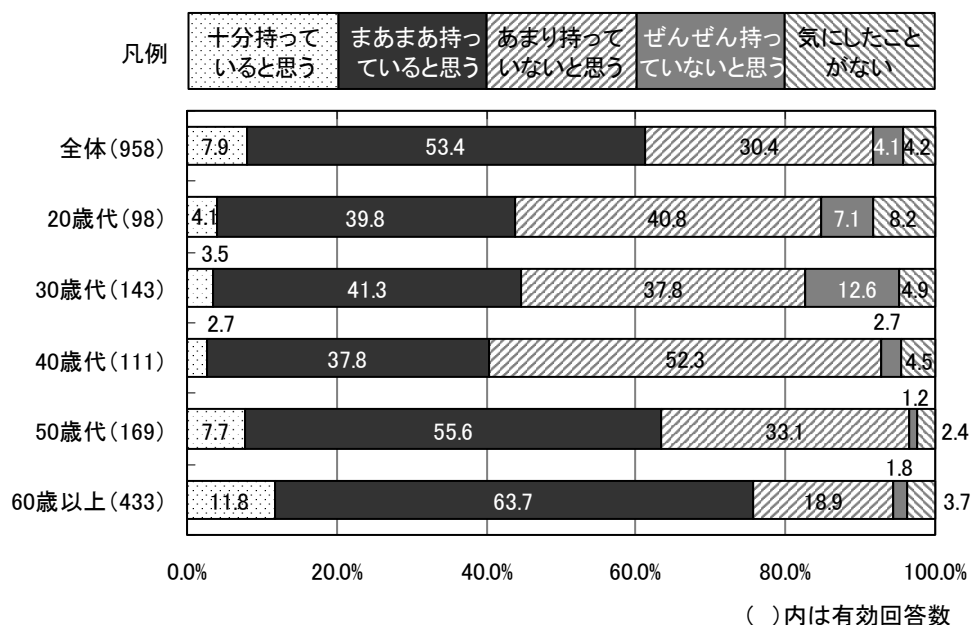
一般成人の食の安全に関する知識の状況を性別で見ると、女性では「十分持っていると思う」と「まあまあ持っていると思う」を合わせた割合が65.9%となっており、男性より12ポイント高くなっています。

図4-(2)-1 食の安全性に関する知識の有無（一般成人 性別）



一般成人の年代別にみると、50歳代以上で「十分持っていると思う」と「まあまあ持っていると思う」を合わせた割合が高くなっており、60歳以上では75.5%になっています。

図4-(2)-2 食の安全性に関する知識の有無（一般成人 年代別）

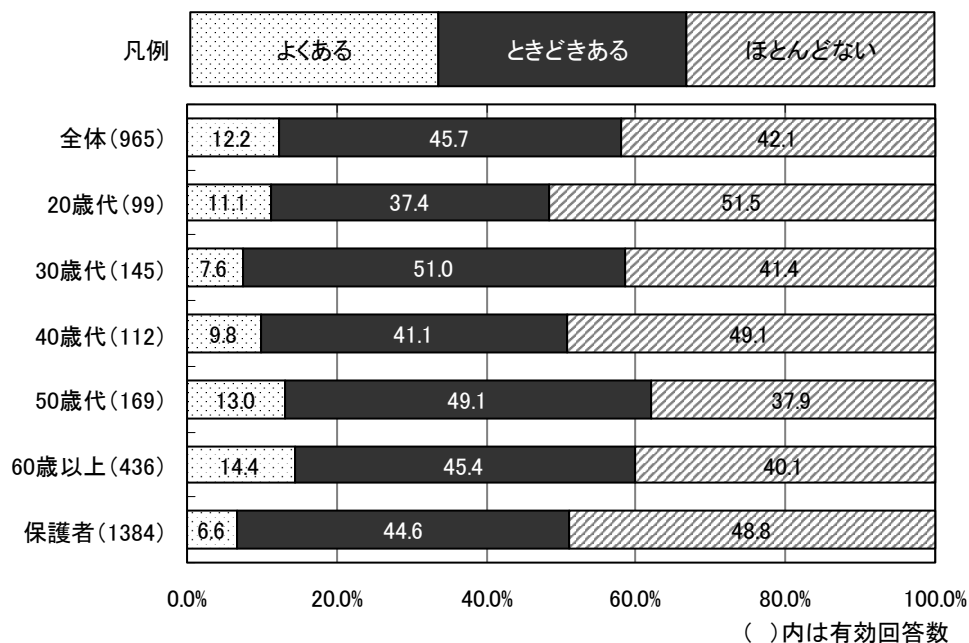


## 5 食文化や地産地消

### (1) 食べ残しなどの状況

一般成人の食べ残しなどの状況を年代別で見ると、30歳代、50歳代、60歳以上で「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合が約6割になっており、他の年代に比べ高くなっています。

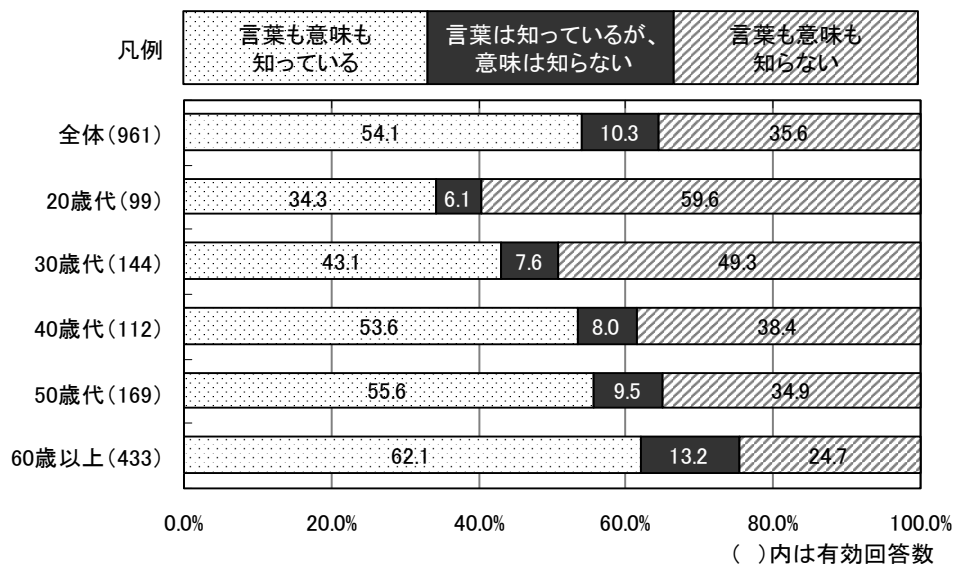
図5-(1)-1 食べ残しなどの状況（一般成人 年代別、保護者）



### (2) 地産地消の周知度

一般成人の地産地消の周知度を年代別で見ると、年代が上がるにつれ、「言葉も意味も知っている」の割合が高くなっており、60歳以上では62.1%になっています。

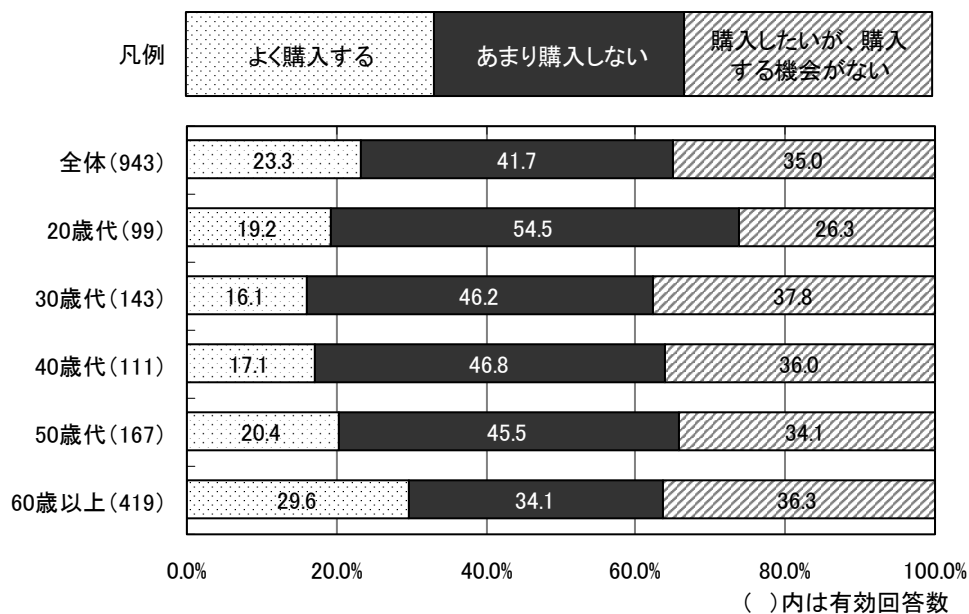
図5-(2)-1 地産地消の周知度（一般成人 年代別）



### (3) 地元産野菜の購入状況

一般成人の地元産野菜の購入状況を年代別で見ると、年代が上がるにつれて「よく購入する」の割合が増えており、60歳代以上では29.6%になっています。一方、20歳代では「あまり購入しない」の割合が54.5%となっており、他の年代に比べ高くなっています。また、「購入したいが購入する機会がない」はどの年代においても約3割となっています。

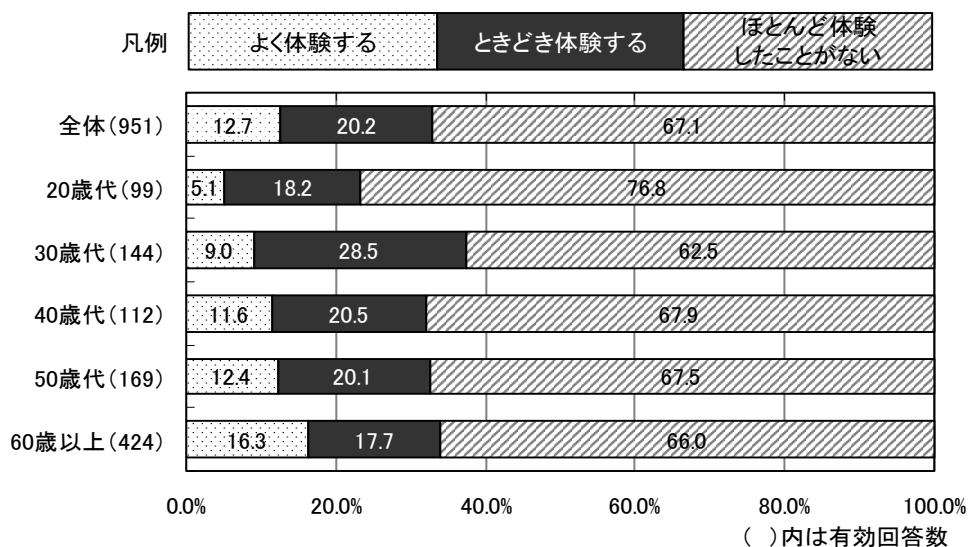
図5-(3)-1 地元産野菜の購入状況（一般成人 年代別）



### (4) 農業体験等の実践度

一般成人の農業体験等の実践度を年代別で見ると、30歳代で、「よく体験する」、「ときどき体験する」を合わせた割合が37.5%となっており、他の年代に比べ高くなっていますが、20歳代では23.3%となっています。

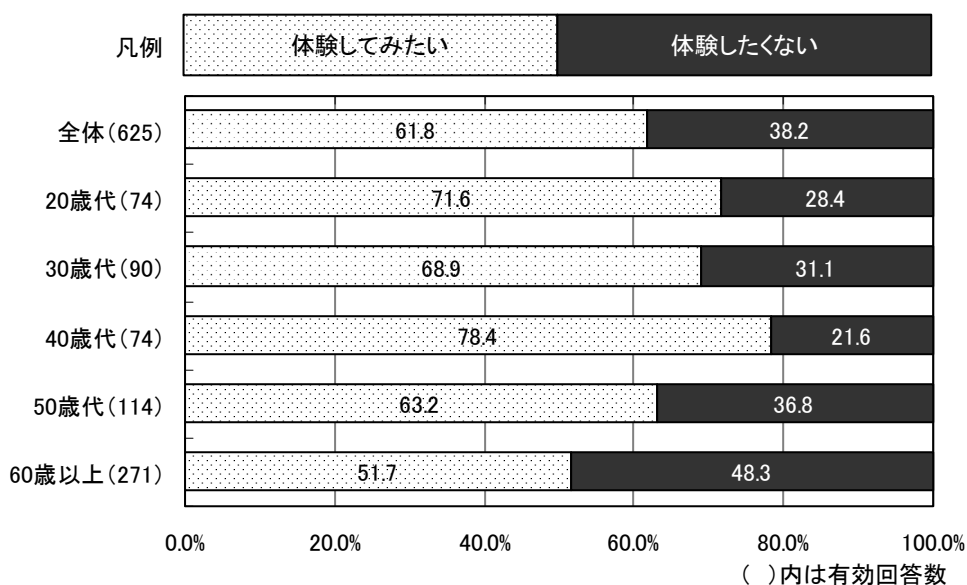
図5-(4)-1 農業体験等の実践度（一般成人 年代別）



(5) 農業体験等の実施意向

一般成人の農業体験等の実施意向を年代別で見ると、40歳代では「体験してみたい」の割合が78.4%となっており、他の年代に比べ高くなっていますが、60歳以上では51.7%となっています。

図 5-(5)-1 農業体験等の実施意向（一般成人 年代別）



高槻市の結果を大阪府と比較すると、「体験してみたい」が61.8%となっており、大阪府より7.8ポイント高くなっています。

図 5-(5)-2 農業体験等の実施意向（一般成人）

